

Title	外国人によって記録された幾つかのベトナム語について : (1)J.Barrowの記すベトナム語と中国語について
Author(s)	富田, 健次
Citation	大阪外国語大学学報. 64 p.313-p.347
Issue Date	1984-03-20
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/80984">https://hdl.handle.net/11094/80984</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 外国人によって記録された幾つかの ベトナム語について

(1) J. Barrow の記すベトナム語と中国語について

富 田 健 次

## On Some Vietnamese Words Recorded by Foreigners

(1) Some Vietnamese Words and Chinese ones recorded by  
John Barrow in 1806

Kenji TOMITA

When we study the history of the Vietnamese language, we surely face some difficulties. One of them is the shortage of materials available, because Vietnamese had no letters of themselves but Chinese letters to express their language for a long time. It is surprising that just up to the beginning of the 20th century they continued to use Chinese letters as their orthography. As a matter of course, they left massive materials but from them we can hardly find any Vietnamese words except some names of places.

In fact, they had a lot of materials written in Vietnamese demotic letters called 'chu Nom' but these are also the letters invented by borrowing the principles and forms of the Chinese letters and naturally depending on their pronunciations and meanings at that time. So even from them we cannot take out the exact form of the Vietnamese words.

On the other hand, we have had a very few materials written in the Roman alphabet before the present Roman orthography was established in Vietnam. They are, on the contrary, quite important for us, as they give us the exact form of each word at that time.

The most important of them is, needless to say, *Alexandre de Rhodes'* 'Vietnamese-Portuguese-Latin Dictionary' published in 1651. This may be the first dictionary written in the Roman alphabet with some modifications. According to it, we are able to know directly the exact form of almost all Vietnamese words used at the 16th century. But from then, up to the middle of the 19th century, there are almost no materials written in the Roman alphabet.

Recently a friend of mine has pointed to me the fact that there recorded less than 100 Vietnamese words comparing English and Chinese counterparts in a book of travel entitled '*A Voyage to Cochinchina*' by an English man named John

Barrow published in 1806. We then knew that this was the book which had been written by the author on the basis of his own observation in 1792 and 1793. If it is true, we have a very interesting material in hand giving us the forms of some Vietnamese words from the end of the 18th century to the beginning of the 19th century. And it is all the more important because the author did not seem to refer to any dictionaries like *de Rhodes'* to write down the Vietnamese words. That is to say, he was quite free from norm consciousness when he did it. He freely wrote down them just as he heard.

In this essay, I will introduce some materials concerning our study on the history of the Vietnamese language and then mainly try to analyze some Vietnamese words and also Chinese ones recorded by Barrow on the basis of the linguistic method. It is hoped that the form of some words in the word system at that time will be clarified.

## 一 はじめに

私達がベトナム語を歴史的に研究しようとする時、必ずぶつかる障碍は、その資料の余りにも少いことである。その原因の一つは、勿論、ベトナム民族が長い間自らの文字を有せず、言わば借り物の文字である漢字を用いて、しかも借り物の言葉である中国語つまり漢文によってその民族の言葉を記録して来たことにある。民族の言葉が中国の言葉によって話され、書かれると言う言い方は矛盾しているように聞こえるかも知れないが、その意味は、自らの言葉の神髄、更に言えばベトナム人の心が中国の言葉に翻訳され、それに乗り移って再び姿を表わすという意味である。ベトナム人が、ベトナム人の手で書いた漢詩や漢字文学のことを漢詩とか漢字文学とは呼ばず、「漢越詩」「漢越文学」と呼ぶのを好むのは正にそのような理由からである。衣はたとえ借り物でもその精神はベトナム民族のものであることを強く意識した表現である。しかしそれにも拘らず、それらは飽くまで漢字であり漢文であって、たとえそこにベトナム人の精神を汲み取ることはできてもベトナム人の言葉を掬い取ることはできない。

ベトナム民族は長い間自らの文字を持たなかったと上に述べたが、いや、そんなことはない、『<sup>チュノム</sup>字喃』という立派な民族文字をずっと昔から持っていたではないかという批判の声が挙がるかも知れない。しかしこの文字とて、民族の言葉を他の言語に翻訳する作業を省略しただけで、依然として衣は借り物のままなのである。「天」の下に「上」という漢字を書いてベトナム語の〈天〉や〈空〉の意味を汲み取らせるには、それを書く人も読む人も漢字の「天」と「上」の意味を深く認識していなければならなかったのであり、「草」の右隣に「古」という漢字を書いてベトナム語の〈草〉の意味を想起させるためには、やはり、書く方も読む方も漢字「草」の意味を十分知り、漢字「古」の読み方を十分認識していなければならなかった筈である<sup>1)</sup>。つまり、これも一種の翻訳作業であることには変わりなく、漢字の音形と意味を透かしてしかベトナム語は表現できなかったものであり、またそれを読み取ることもできなかったものである。他の外国語を媒介に

してしか自国語が表現できない文字を民族文字と呼ぶことができるだろうか。日本の片仮名が真の民族文字と呼ばれるのに相応しいのは、たとえ元々は借り物であっても、外国文字である漢字の桎梏を見事に脱し、それから独立した文字としての体裁と機能を十分に備えた文字であるからである。ここでは漢字の形も意味も最早、媒介とする必要が全くない。「国字」と呼ばれる日本製漢字が民族文字と呼ばれないのは、それが飽く迄、漢字の形と意味を前提とした文字だからである。『字喃』はむしろこの後者の文字に似ていると言えよう。

ベトナム人が上の意味での民族文字を手に入れたのは19世紀も半ば以降、フランスの支配下に入ってからかなりの時を経過してからである。これが「国語字」(chữ quốc ngữ)と呼ばれる現代のローマ字正書法なのである。これによってベトナム人は他のいずれの民族の言語の媒介も必要とせず、自由に自らの言葉を表現する手段を手にしたのである。高々、150年ほど前のことである。

しかも驚くべきことに、漢字・漢文による官吏登用試験である科擧の制度が完全に廃止されたのは今から僅かに70年も遡らない1915年(中部では1918年)のことなのである。それまではローマ字表記も未だ正式な文字とは認知されていなかったのである。

このようなベトナム文字の歴史を辿って見れば、民族語としてのベトナム語の歴史を研究することが如何に困難なことであるか容易に理解できるであろう。ベトナム語がベトナム語として記録され、伝えられた歴史が余りにも浅く、しかもベトナム語として記録されたとされる『字喃』でさえも、その背後にある漢字の意味と発音に大きく制約され、ごく蓋然的にしかそのベトナム語の音形と意味を汲み取ることができないのである。

そこで、このような制約を承知の上で、ベトナム語の歴史を研究するためには如何なる方法が取られるべきであろうか。大別すれば以下の5つの方法が考えられるであろう。

- 1) 現代諸方言の研究
- 2) 同系語、主としてムオン諸方言<sup>2)</sup>との比較研究
- 3) 周辺諸語、主としてモン・クメル系諸語、タイ系諸語との比較研究<sup>3)</sup>
- 4) 漢字音の中国中古音系との比較研究<sup>4)</sup>
- 5) 文献資料に見えるベトナム語の研究

1)~4)の研究の重要性については稿を変えて論ずることにして、本稿では5)の研究について若干論じてみようと思う。

## 二 文献資料に見えるベトナム語の研究

前章で述べた通りベトナム語を表記する文字として最も広く用いられたのは、言うまでもなく『字喃』と現代ローマ字正書法である「国語字」である。『字喃』で書かれた文献はベトナム語の歴史的研究の重要な資料であることは確かであるが、既に述べた通り、この文字は漢字の意味と発音、更に限定して言えばそれがベトナムに受け入れられて以降の、ベトナム人によって把握された意味と発音の仕方に大きな制約を受け、しかもそれによってあるベトナム語の意味と音形を

暗示するに留まる性格のものであり、その語の正確な姿を知ることとはとうていできない。その上、当然のことながら、時代から時代へと受け継がれたものが多く、特定の時代の特定の言語状況を知るといふ点では資料的価値が減じると言わざるを得ない。ある語が幾通りもの文字で書かれたり、或いは逆に、ある文字がいくつかの語に兼用されることも多く、それらを正確に復元することは容易なことではない。現に、そのほとんどが「国語字」に翻字されて今日まで読み継がれている18～19世紀の『字喃』作品の中にも、翻字者の誤解によって誤った翻字がなされている例すら発見されているのである。

このように、『字喃』は、その一字一字に何某かの意味的、音的特徴を留めていることは認められても極めて蓋然的なものであり、それによって、特定の時代の特定の言語状況を復元することは困難である<sup>5)</sup>。

その意味では現代ローマ字正書法である「国語字」によって書かれた文献も同様で、その伝承性と規範意識にガードされた表記からその当時の言語状況を復元することは極めて困難である。しかしそれもこの文字が正書法として認識され始めた18世紀末から19世紀初頭以降のことであり、それ以前の文献はそのような規範意識からも全く自由で信頼が置けると言える。この類の資料で最も価値のあるものは、言うまでもなく、今日のベトナム正書法の基礎となった Alexandre de Rhodes (1591-1660) の『ベトナム語＝ポルトガル語＝ラテン語辞典<sup>6)</sup>』である。この辞書は1651年の刊行であるが、その成立には二人のポルトガル人宣教師によるベトナム語＝ポルトガル語及びポルトガル語＝ベトナム語辞書が利用されたことが序文の中に述べられていると言<sup>7)</sup>、西洋人によるベトナム語のローマ字表記の試みは既に17世紀中葉以前から行われていたと考えられる。

それともう一つ忘れてならない資料は、同じく de Rhodes によってやはり同年にローマで刊行された『公教要理<sup>8)</sup>』である。洗礼してキリストの道へ入ろうとする人に対する8日間の説教をラテン語とベトナム語で記したもので、当時の言語状況を知るには上の『辞書』と共に最良の資料である。

この二つの資料については、諸家の散発的な研究はあっても<sup>9)</sup>、両書を正面に据えた本格的な研究は残念ながら未だ出現していない。

両資料以後2世紀程は目ぼしいローマ字表記の文献は出現していないが、19世紀の半ばから後半にかけてベトナム語＝ラテン語、ベトナム語＝フランス語辞典やベトナム語に関する文法書・会話読本などが陸續と出版されている。その最も初期のものは次のようなものである。

1838年: *Dictionarium Anamitico-Latinum* J. L. Taberd (Serampore)

1867年: *Abrégé de grammaire annamite* Trương Vĩnh Ký (Saigon)

1895年: *Dictionnaire Annamite-Français* J. F. M. Génibrel (Saigon)

1895～96年: *Dictionnaire annamite-français* (大南國音字彙) Huỳnh Tịnh Paulus Của (Saigon)

1899～1900年: *Dictionnaire Annamite-Français* J. Bonet (Paris)

これらの文献は強い規範意識に因われ、当時の言語状況を正確には反映していない恐れがあるが、de Rhodes の辞書との比較、現代語との比較検討によって興味ある事実が浮き彫りにされることは大いに期待できる。

ところで、この時期、盛んに西洋人がこの地へ赴いて当時のベトナムの風俗・習慣やベトナム語について観察しその記録を残している。そのうち、最も初期の文献の一つが次のものである。

1806年：*A Voyage to Cochinchina, in the years 1792 and 1793* John Barrow (London)

これは、その表題にもある通り、1792年と1793年、当時の在中国イギリス大使 Macartney 卿に随行して、現在のベトナムのダナン（フランス人はここを Touraine と呼んでいたが、本書では Turon と記されている）に立ち寄った際の観察が中心となっている旅行記である。この中には凡そ90語近くのベトナム語が採録されている。しかも、de Rhodes 以下の辞書を参考にした形跡は全くなく、唯々、耳を頼りにそれらをローマ字で表記したものであり、当時のベトナム語の姿を再構するためにはその資料的価値は高いと思われる。その上、de Rhodes の辞書から Taberd の辞書の1838年までは資料的に全くの空白の期間であり、その間の言語状況を知るには恰好の資料と思われるのである。本論者は主としてこの資料に取り上げられたベトナム語から当時のベトナムの言語状況の一半を再現し、ベトナム語の歴史の流れの中にこの資料を位置付けようとするものである。

さて、上で述べたような『字喃』表記、ローマ字表記の資料のほか、ベトナム語を書き留めた資料に漢字による表記の資料がある。これもベトナム語の音形を暗示している点で前述の『字喃』と似ている。異なる点は、『字喃』がベトナム語を、漢字のベトナム式発音（所謂「ベトナム漢字音」）によって音註し、暗示しているに対して、この漢字表記の資料では、ベトナム語を、中国人のその当時の発音によって漢字で音註、暗示していることである。そのため、これらの表記も、その音註された漢字の、当時の中国における発音方法に大いに制約され、この復元・再構を待つて初めて資料的価値が賦与される性格のものである。しかも、たとえそれが成されたとしても、やはり、当時のベトナム語の音形の暗示にしか過ぎず、これによって当時の言語状況の正確な再構を計ることはできない。ただ、『字喃』よりも資料としての価値が高い理由は、これがある特定の時代に書かれたものであり、しかも、規範としての伝承性が皆無で、一回きりの観察による表記であったからである。

この類の資料で最も価値のあるものは、言う迄もなく、『華夷訳語』の中の『安南訳語』<sup>109</sup> である。これは諸家の研究により15～16世紀のベトナム語を明末の北方官話発音の漢字で音註したものであることが明らかにされ、その音註から当時のベトナム語の一半が浮き彫りにされている。

ところで、この『訳語』よりも1世紀以上も前、13世紀末から14世紀初めに書かれたと見られる陳剛中（陳孚）の『交州薬』（別名『使交州集』：『陳剛中詩集』巻之二）の中に、僅かに18個のベトナム語であるが、『訳語』と同様に当時の中国元代発音の漢字で音註されている例があることは意外に知られていないことである<sup>110</sup>。これも当時のベトナム語の状況を知る資料としては

重要なものである。

その他、明末清初の朱舜水の『安南供役紀事』（『舜水遺書』所収）に散見する若干のベトナム語の漢字による音註、『張鏡心馭交記』（『東漢書』所収<sup>12)</sup>）に記載されるベトナム語の漢字による音註、また、ベトナム人自身の手になる漢籍資料にもベトナム語が漢字や『字喃』で音註されている例は数多く、これらを丹念に拾って行けば、ベトナム語の歴史的研究に一定の貢献ができるものと思われる。

更に、漢字の他に、日本語の仮名で音註した資料も若干存在する。19世紀初期の近藤守重の『安南紀略藁』（『近藤正齋全集』巻一所収：1905 國書刊行會編纂出版）中の「甲寅漂民始末」や南篠文雄、高楠順次郎述、澤井常四郎編になる『佛領印度支那、一名佛國日南の新領土』（1903）に紹介されている『安南漂流物語』（1767）や『南漂記』（1794）などの、日本人漂流民によるベトナム語の口述記録や筆記録である。いずれも可成りの数に上るが、粗雑な資料であり、その取り扱いには厳重な注意を要するが、時に興味深い事実を提供してくれる。

これとは逆に、金永鍵『印度支那と日本との關係』（1943）の紹介する『日本見聞録』（1828 張登桂・記）は、日本に漂着したベトナム人が日本語を口述したものを記録したものであるが、その『字喃』様の漢字による音註の仕方から当時のベトナム語を逆推することが可能かも知れない<sup>13)</sup>。

筆者は、上のような諸資料のうち、日本で現在目にすることのできる資料を選び、そこで用いられている音註を悉く抽出し、それに言語学的分析と解釈を加えて当時の言語情況の一半を再現してみたいと考えている。

先ず第一回は、これまでほとんど注目を集めなかった、J. Barrow の『旅行記』を取り上げ、その中に記載されているローマ字表記のベトナム語によって、今から凡そ190年ほど前のベトナムの言語情況の一半を闡明してみようと思う。本書にはやはり190年前の中国語もローマ字で表記されている訳で、中国語の研究にも一半の貢献を成すものと思われるが、筆者の専門外に属することであり、本論考では西洋人の表記法の特徴を明らかにするためにのみこの中国語資料を用いることにし、他の大半の力は、ベトナム語語彙の考究に費すことにする。

### 三 J. Barrow の記すベトナム語と中国語について

Barrow はその『旅行記』の第10章、General sketch of the manners, character, and condition of the natives of Turon の中の Language<sup>14)</sup> の項で、その当時のベトナム人の言葉について以下のように記している。

「コーチシナ人(ベトナム人：筆者)は、中国語の文字を効果的に保存しているので、我々は、中国僧侶を用い、この文字(漢字：筆者)を使えば、どんな問題についても、彼等と交渉することに何ら困難を感じない。しかしながら、その話し言葉は可成りの変化を蒙っている。中国の北部人と南部人が互いに理解不可能であることを考えれば驚くには値しないのだが、しかしたとえ変化を蒙っているとしても、原地人自身による語彙の追加や外来語の導入もなく進歩したとはとうてい思

えない。別の仕事のために作製した簡単な語彙項目と、それに対応するコーチシナ語を比較してみると、この両言語が如何によく似ているかそしてまた、如何に異なっているかが分かるであろう」

このように述べた後、以下に掲げるような英語＝中国語＝ベトナム語（コーチシナ語）の対応表を掲げている。収録語数は87語である（最後の語彙<10万>については、英語、中国語のみで、ベトナム語は挙げていないから、ベトナム語については正確には86語である）。

更に、ベトナム語の発音について観察し、以下のように記述している。

「コーチシナ人は、自分達はほとんど何の困難もなしに発音できる B, D, R の子音を導入している。しかし中国人は、どんなに努力しても、それらの子音の一つが入った音節を発音することができない」

著者はこの B, D, R の子音がどのようなものであったかについて言及していないが、恐らく、B, D について言えばそれが現在同様、既に前声門閉鎖破裂音 (preglottalized stop) であったために、そのような調音法を持たない中国人にはどうしても発音が困難だったのであろう。また R 子音の語については本書では一例も挙げられてないので考察の仕様がいないが、この子音は現代北部方言では舌尖摩擦音 [z] に変じてしまっているが、元来は、中・南部方言に依然として残る舌尖による歯茎ふるえ音 (a tongue tip flap or trill against the alveolar ridge<sup>15</sup>) であった可能性が強く、この移行過程の複雑な調音が中国人を悩ましたことは十分考えられる。

さて、これに引き続いて、ベトナム語の句の構成についても若干目を向けている。

「句の構成に関しても両言語には顕著な差がある。人称代名詞の複数を作るに際しては、中国人は以下のように muen (多くの) を用いる。

ngo	ne	ta
<私>	<あなた>	<彼>
ngo-muen	ne-muen	ta-muen
<私達>	<あなた達>	<彼等>

これに対してコーチシナ人は chung (すべての) という音節を用いる。

tooi	bai	no
<私>	<あなた>	<彼>
chung-tooi	chung-bai	chung-no
<私達>	<あなた達>	<彼等>

」

ベトナム語について見るならば、複数形の構成は凡そ190年後の今日も全く変わらない。唯、二人称だけは今日と若干異なっている。二人称単数は今日は may<sup>16</sup> [māj] が用いられ、bay [ʔbāj] は二人称の複数としてのみ存在している。つまり、二人称複数形としては現在では chung may, chung bay, bay のいずれでも構わない訳である。いずれにしる、卑称または親称としてのみ用いられるもので<あなた>のような丁寧な形で用いられることは全くない。上の表によれば、二人称の単数として bay が一般に用いられ、しかも卑称でもなかったということになる。現在用いら



れている may という形は当時は存在していなかったのだろうか. 興味のある問題である.

さて, それでは, Barrow が本書で挙げているすべての語彙をここに列挙し, その後でその一つ一つについて詳細な分析と解釈を加えてみることにしよう. 先ず念のために, 英語, 中国語, コーチシナ語 (ベトナム語) とも原文通りここに再録しておくことにしよう. 中国語の横に記した漢字は筆者がそれに相当するであろうと思う漢字を選んで当てたものである. 英語の横に振った番号も筆者が便宜的に付けたものである. 解釈の所では, 漢字はすべて「」で示し, ベトナム語の意味はすべてくゝで示した. また現代中国語は MC (Modern Chinese), 現代ベトナム語は MV (Modern Vietnamese), ベトナム漢字音は SV (Sino-Vietnamese) の略号でそれぞれ示すことにした. 音声記号はなるべく伝統的音声記号を用いた. 現代中国語には「拼音」表記を, 現代ベトナム語には「国語字」表記を左隣に付した. 解釈の順序は, 中国語の表記について先ず試み, その次にベトナム語の表記について行った.

[英 語]	[中国語]	[コーチシナ語]
(1) The Earth	地 tee	dia
(2) The Air	気 kee	bloei
(3) Fire	火 ho	whoa
(4) The Sea	海 hai	bæ
(5) A River	河 ho	jeang
(6) A Mountain	山 shan	noui
(7) The Sun	日頭 yee-to	mat bloei <i>eye of heaven</i>
(8) The Moon	月 yué	blang
(9) The Star	星 sing	sao
(10) The Clouds	雲 yun	moo
(11) Thunder	雷 luie	no-sang
(12) Lightning	閃電 shan-tein	choap
(13) The Wind	風 fung	jeo
(14) The Day	日 jee <i>or</i> 天 tien	ngai
(15) The Night	夜 ye <i>or</i> 晚上 van-shang	teng
(16) The Sky or Heaven	天 tien	tien
(17) The East	東 tung	doo
(18) West	西 see	tai
(19) North	北 pee	pak
(20) South	南 nan	nang
(21) Man	人 jin	dan-ou
(22) Woman	婦 foo-gin	dan-ba
(23) A Quadruped	獣 shoo	kang

(24)	A Bird	禽 kin	ching
(25)	A Fish	魚 eu	ka
(26)	A Tree	樹 shoo	kai
(27)	A Fruit	果子 ko-tse	blai
(28)	A Flower	花 wha	wha
(29)	A Stone	石 shee	ta
(30)	Gold	金 tchin	whang
(31)	Silver	銀子 in-tse	bak
(32)	Copper	銅 tung	tow
(33)	Lead	鉛 yuen	chee
(34)	Iron	鉄 tié	tié
(35)	The Head	頭 too	too
(36)	The Hand	手 shoo	tai
(37)	The Heart	心 sin	blai
(38)	The Foot	腳 tchiau	tchen
(39)	The Face	面 mien	mien
(40)	The Eyes	眼睛 yen-shing	mat
(41)	The Ears	耳朵 eul-to	tai
(42)	An Ox	牛 nieu	bo
(43)	A Horse	馬 ma	ma
(44)	An Ass	驢子 loo-tse	looa
(45)	A Dog	犬 kioon	koo
(46)	A Sheep	羊 yang	chien
(47)	A Cat	貓 miau	miao
(48)	A Stag	山鹿 shan-loo	hoo
(49)	A Pigeon	鴿子 koo-tse	bo-kau
(50)	An Egg	鵝蛋 kee-tan	te-lung
(51)	A Goose	鵝 goo	ngoo
(52)	Oil	油 yeo	taw
(53)	Rice	米 mee	gao
(54)	Vinegar	醋 tsoo	jing
(55)	Salt	塩 yen	muoi
(56)	Silk	綢 tsoo	looa
(57)	Cotton	棉花 mien-wha	baou
(58)	Sugar	糖 tung	dang
(59)	A House	家 shia	da
(60)	A Temple	廟 miau	shooa
(61)	A Bed	牀 tchuang	tchuang
(62)	A Door	門 men	pan
(63)	A Knife	刀 tau	tiau

(64) A Plough	犁 lee	kai
(65) An Anchor	錨 mau	dan
(66) A Ship	船 tchuan	tau
(67) Money	錢 tsien	tien
(68) One	一 ye	mot
(69) Two	二 ul	hai
(70) Three	三 san	teng
(71) Four	四 soo	bon
(72) Five	五 ou	lang
(73) Six	六 leu	lak
(74) Seven	七 tchee	bai
(75) Eight	八 pa	tang
(76) Nine	九 tcheu	chin
(77) Ten	十 shee	taap
(78) Eleven	十一 shee-ye	moei-mot
(79) Twelve	十二 shee-ul	moei-hai
(80) Twenty	二十 ul-shee	hai-moei
(81) Thirty	三十 san-shee	teng-moei
(82) Thirty-one	三十一 san-shee-ye	teng-moei-mot
(83) Thirty-two	三十二 san-shee-ul	teng-moei-hai
(84) One hundred	百 pe	klang
(85) One thousand	千 tsien	ngkin
(86) Ten thousand	万 van	muon
(87) One hundred thousand	十万 shee-van	

(1) 一漢字「地」の MC 音は di [ti] であるので声母<sup>17)</sup> は MC とほぼ同価の音が反映されていると見られる。しかし、韻母の -ee 表記は一体如何なる音価を持っているのだろうか。この表を作成したのがイギリス人であることから、-ee は英語の see や knee などの母音 [i:] のような音を表現しているとするのが一つの見方であろう。このように見ると、他の同韻の例の表記も納得できる。(2) 「氣」 kee (MC 音 qi [tʃ'i]), (18) 「西」 see (MC 音 xi [ʃi]), (50) 「鷄(蛋)」 kee (MC 音 ji [tʃi]), (53) 「米」 mee (MC 音 mi [mi]), (66) 「犁」 lee (MC 音 li [li]), (74) 「七」 tchee (MC 音 qi [tʃ'i]). またやや中舌的な MC 音 [i] もこれで表記されている。(7) (14) 「日(頭)」 jee (MC 音 ri [ʒi]), (29) 「石」 shee (MC 音 shi [ʃi]). もう一つの見方は、これは文字通り [e:] という音を表現しているとする見方である。それは、(19) 「北」 pee (MC 音 bei [pei]) の例で MC 音 [-ei] を表記するのにこの -ee が用いられていることを一つの根拠としている。また、恐らくこの表の作成に何らかの関与をなしたであろう中国南部の人々が北方官話の [i] を [e] [ɛ] や [ei] [ie] で発音することが多いのも一つの論拠とすることができるであろう。例えば、「地」は厦門方言<sup>18)</sup> では [te], 広州・福州方言では [tei], 「氣」は

福州方音では [k'ei], 「西」は廈門方音では [se], 福州方音では [se], 「鷄」は廈門方音では [ke], 福州方音では [kie], 「犁」は廈門方音では [le], 福州方音では [le], 「七」は福州方音では [ts'ei?], 「石」は潮州方音では [tsie?] などである。

-ee 表記が [i:] なる音を表示しているのか [e:] なる音り表示しているのか俄に断じ難いが、前者の説に有利な証拠を更に二つ挙げておこう。一つは、ベトナム語の表記のところを見ると、(33) 「鉛」chee (MVchi [tʃi]) が目につく。これは明らかに [i] なる音を -ee で表記している例である。もう一つは、上で挙げた諸語と同韻である(68) 「一」ye (MC 音 yi [i]) が ee ではなく ye で表記されていることである。これは [ie] と解釈されないこともないが、ee では英語式の綴りでは坐りが悪いため、恰も英語の ye [ji:] 〈汝等〉のように ye と綴ったと解釈する方が妥当ではないだろうか。

一〈地〉の意の MV は dāt [ʔdāt] であるが、本項は漢字「地」の SV dia [ʔdiā] を写したものであろう。声・韻母とも現代 SV とほぼ同価の音が反映されていると見られる。

(2) 一漢字「氣」の MC 音は qi [tʃ'i] である。韻母の表記については前記(1)を参照されたい。声母は MC の舌面摩擦者とは異なり喉閉鎖音 k- で表記されている。B. Karlgren の再構によれば \*k'jad/k'jei/k'i であり<sup>19)</sup>、この表には、MC における舌面化以前の閉鎖音が保存されているのである。この表では無気：有気の対立には全く無頓着なので、この点を無視すれば以下のような諸語も全く同様に閉鎖音 k- を保存しているのである。(24) 「禽」kin (MC 音 qin [tʃ'in]), (45) 「犬」kioon (MC 音 qüan [tʃ'yan]), (50) 「鷄(蛋)」kee (MC 音 ji [tʃi])。しかし一方では同じく舌面化を蒙ったと見られる諸語が MC 音同様舌面的音で表記されているのである。(30) 「金」tchin (MC 音 jin [tʃin]), (38) 「脚」tchiao (MC 音 jiao [tʃiau]), (76) 「九」tcheu (MC 音 jiu [tʃiau])。例外的に(59) 「家」shia (MC 音 jia [tʃia]) は sh- で表記されている。もし例えば中国南部の方言の影響を考えるとすれば上の諸語はすべて k- で表記されなければならない筈である。一体どのような条件の下で、一方は閉鎖音を保存し、一方では舌面音で書かれたのであろうか。この表の作成に関与した中国人、筆者の想像では中国南部のいずれかの方言を母語とする中国人が、北方官話を話しながらも時に自身の方言音で漢字を読んだり、或いは西欧人の聞き取り調査に方言音で応じたりすることがあったのではあるまいか。このことを示す例はこの表に随所に見られるのである。

一〈空〉の意の MV は troi [tʃaj] であるが、A. de Rhodes の『ベトナム語＝ポルトガル語＝ラテン語辞典』には blò<sup>20)</sup> と表記され、当時 bl- という複子音が存在していたことは確実に、それが、この作者がベトナムを訪れた1792～3年頃まで保存されていたことが分かる。ベトナム語と唯一、同系関係が証明されているムオン語では現在でも tloi という複子音で発せられており<sup>21)</sup>、この bl- は bl->tl->tr->[tʃ] という変遷を辿ったものと思われる。その bl- から tl- への変化は19世紀に入ってからであることがこの書で証明されたのである。尚、韻母の表記 -oei は、MV 韻母 [-aj] の他、(78) 「十(一)」moei (MV 音 mui [muəj]) の韻母の表

記にも用いられ MV 韻母とほぼ近似した音が反映されていると見る事ができよう。

(3)一漢字「火」の MC 音は huo [xuə] であり、声母については全く問題がない。韻母について考えてみると、MC で同韻の語、(27)「果(子)」ko (MC 音 guo [kuə]), (41)「耳(朶)」to (MC 音 duo [tuə]) もすべて -uo ではなく -o で表記されている。これらもしかしたら中国南部の方音の反映かも知れない。例えば厦門方音における上記諸語の発音はそれぞれ「火」[ho], 「果」[ko], 「朶」[to] である。

一<火>の意の MV は lra [luə] であるが、本表は漢字「火」の SV 音 hoa [hwa] を記録したものと思われる。wh- 表記は h- 音の唇音化を意味していると思われる、それならば同様に唇音化を示す介母音 -o- を入れずに wha と書いた方がより正確であると思われる。その証拠に SV で同韻の(28)<花> wha (SV 音 hoa [hwa]) は whoa ではなく wha と書かれている。また中国語の方も「花」wha (MC hua [xua]) と表記されている。また wh- なる表記はその他(30)<金> whang (MV 音 vang [vaŋ]) のように MV の v- 声を写すのにも利用されている。実はこれには理由があり、MV の v- 声の語の一部には h- 声の唇音化により転化したものが含まれるからである。例を幾つか挙げておこう。

漢字	SV 音	MV 音
「黄」	hoang [hwaŋ]	vang [vaŋ]
「禍」	hoa [hwa]	va [va]
「割」	hoach [hwatʃ]	vach [vatʃ]
「和」	hoa [hwa]	va [va]

MV での意味は上から<黄色・金><禍い><線を引く><そして>である。故に、この本が書かれた時代には MV の<金>はまだ [vaŋ] ではなく [hwaŋ] であったと見る事ができるのである<sup>22)</sup>。

(4)一漢字「海」の MC 音は hai [xai] であり声・韻母とも MC 音に極めて近い音が反映されていると思われる。

一<海>の意の MV は biē [ʔbien] または bê [ʔbe] であるが本表には後者が記録されたものと思われる。声母については全く問題ないが韻母を写した -æ は MV の ê [e] よりやや広いもののようである。他の例の韻母に含まれる MV の ê はすべて e で表記されている。

(5)一漢字「河」の MC は he [xə] である。声母の表記は全く問題ないが、韻母の [ə] は -o で表記されている。本表の中に MC で同韻の語を求めれば、(49)「鵠(子)」koo (MC 音 ge [kə]) と(51)「鵠」goo (MC 音 e [ə]) があるがこれらはすべて -oo で表記されている。-o と -oo では一体どれほど音価に差があったのであろうか。またこの表記を考える場合には、「河」の厦門・潮州方音 [ho], 広州・梅県方音 [hɔ] や「鵠」の厦門方音 [go], 潮州方音 [ŋo] などとも考慮に入れておくべきであろう。

一<川>の意の MV は sōng [soŋ] であるが、本表は漢字「江」の SV 音 giang [zaŋ] を表記したものであろう。gi- 声母は現代北部方言では [z-] 音であるが、この本の著者が訪れたと言う中部地方では [j-] 音であった筈である<sup>23)</sup>。しかし本書はこれを正しく反映していない。本書は

全体として見ても中部地方の方音の特徴を暗示しているとはいえず、どうやら北部方言音に基いて記録されたもののようである。MV 声母 gi- について見れば、これは北部で [j- > ɟ > z] と言う変化を受けた声母であり、もし中部方言に基いた音であれば j- ではなく y- で表記されるべきである。je- 表記は一世代前の北部方言 [ɟ-] を暗示している。それは、(13)〈風〉 jeo (MV gio [zo]) の表記からも窺うことができる。唯、(61)〈寝台〉 tchuang (MV giuong [zuǎŋ]) が tch- で表記されていることが気になるがこれについては後に解釈を試みることにしよう。因みに j- 表記は、中国語の表記では(14)「日」jee (MC 音 ri [ʒi]) や(21)「人」jin (MC 音 ren [ʒən]) の MC 捲舌声母 r- に専用されている。

- (6)一漢字「山」の MC 音は shan [ʃan] である。この表においては、sh- は以下のように MC の捲舌摩擦音 [ʃ] を表記するために用いられている。(12)「閃(電)」shan (MC 音 shan [ʃan]), (15)「(晩)上」shang (MC 音 shang [ʃaŋ]), (23)「獸」shoo (MC 音 shou [ʃou]), (26)「樹」shoo (MC 音 shu [ʃu]), (29)「石」shee (MC 音 shi [ʃi]), (36)「手」shoo (MC 音 shou [ʃou]), (77)「十」shee (MC 音 shi [ʃi]). 例外は、(40)「(眼)睛」shing (MC 音 jing [tʃiŋ]) と(59)「家」shia (MC 音 jia [tʃia]) だけだが、これの表記については後で詳しく考察してみよう。

とにかく、この表記は声・韻母とも MC 音に可成り近い音として表記されているのである。一〈山〉の意の MV は nui [nuj] であり声母の表記には何ら問題がない。韻母の -oui は文字通り [-oui] と考えるよりは -ou- の部分は恰も英語の soup [su:p] の [u:] のような発音と考えて全体で [-u:i] のような発音と考えた方が良いのではあるまいか。-ou- でことさらにその円唇性を強調したかったのではないだろうか。因みに、(72)の中国語表記「五」ou (MV 音 wu [u]) も上のような理由から [ou] 音ではなく [u:] 音を想定しなければならないだろう。

こうして見るとこの語のベトナム語表記は声・韻母とも MV 音と近似したものであると言わなければならない。

- (7)一漢字「日頭」の MC 音は ri tou [ʒi t'ou] である。MC 捲舌音 [ʒ-] が本表では一貫して j- で表記されていることについては前記(5)でも述べた。(22)「(婦)人」gin では g- で表記されているがその前の(21)「人」では jin と表記されているから gin と jin は同音価と考えて差し支えないであろう。英語の gin [dʒin] 〈ジン(酒)〉などを想起すれば良いだろう。

もし本表の作成に中国南部の方言を母語とする人が参画していたとするならば、彼らは北方官話の捲舌音が旨くできなかった筈である。そのためにこのような音で記録されてしまったのではあるまいか。廈門方言では「人」は [dzin] のように現在でも発音されているのである。

「日」の韻母の表記については前記(1)を参照されたい。

「頭」について見ると、この表では有気：無気の区別は全く無視されているから MC 声母 [t'-] が t- で表記されていても驚くには値しない。韻母の方は既に轻声化していたと見えて -o で表記されているが、(35)「頭」の項では too と -oo で表記されている。MC 韻母 [-ou] が

-oo で表記される例は他に, (23)「獸」shoo (MC 音 shou [ʃou]), (36)「手」shoo (MC 音 shou [sou]), (56)「綱」tsoo (MC 音 chou [tʃ'ou]) がある。また -oo 表記は MC 韻 [-u] の表記にも多く利用されている。(22)「婦(人)」foo (MC 音 fu [fu]), (26)「樹」shoo (MC 音 shu [ʃu]), (48)「(山)鹿」loo (MC 音 lu [lu]), (54)「醋」tsoo (MC 音 cu [ts'u]). 更には MC 韻 [-y] の表記にも一例であるが利用されている。(44)「驢(子)」loo (MC 音 lü [ly]). ところが面白いことに上で挙げた語のほとんどが中国の南部地方では共通に [-u]~[-iu] 韻で読まれているのである。そこで -oo 表記は時には [-ə:] や [-o:] 音を表わすこともあったであろうがほとんどの場合、恰も英語の food [fu:d] や fool [fu:l] に含まれる -oo のように [u:] 音を表示したであろうと想像される。

一<太陽>の意の MV は măt troi [măt tʃəj] であり<顔>を意味する前半部はほぼ MV 音と近似した音が反映されていると見ることができよう<sup>24)</sup>。後半部については前記(2)<空>の項を参照されたい。

- (8)一漢字「月」の MC 音は yue [ye] であり、声・韻母とも MC 音と近似した音が反映されているものと思われる。e の上に付された accent aigu は、英語などの「無音」の語尾と誤解されないように付されたものと思われる。他に(34)「鉄」tié にも同様の符号が用いられている。

一<月>の意の MV は trăng [tʃăŋ] である。ここに用いられている bl- 表記も前記(2)の<空>同様、MV 声母 tr- の一部がこの時代まで依然として複子音 bl- を保存していたことの証拠である。因みに前記 de Rhodes の辞書にも blang と記録されている。

韻母の方もほぼ MV 音に近い音が反映されているものと思われる。因みにこの書では母音の長：短は全く区別されていない。

- (9)一漢字「星」の MC 音は xing [ʃiŋ] であり、韻母は MC と全く同価の音が反映されている。声母は MC では舌面摩擦音であり舌尖摩擦音 [s-] とは異なるが、本表ではこの区別もされていない。(18)「西」see (MC 音 xi [ʃi]), (70)「三」san (MC 音 san [san]), (71)「四」soo (MC 音 si [si]). 故に声母の表記についても何ら問題はない。

一<星>の意の MV は sao [saw] であり、ほとんど MV に近い音が反映されている。

- (10)一漢字「雲」の MC 音は yun [yn] であり、声・韻母とも MC 音に近い音が反映されている。

一<雲>の意の MV は mây [măj] であり、声母の表記については全く問題がないが、韻母の表記は可成り不規則である。本表に同韻の語を求めれば、(18)<西> tai (SV 音 tây [tăj]) と(26)<木> kai (MV 音 cây [kăj]), (64)<犁> kai (MV 音 cây [kăj]) があり、すべて -ai で表記されている。また本表で -oo と表記されているものは MV 韻母 -ông [oŋ] 例えば(17)<東> doo (SV 音 đông [ʔdoŋ]), (51)<鵝鳥> ngoo (MV 音 ngông [ŋoŋ]) と MV 韻母 -âu [-ăw] 例えば(35)<頭> too (SV 音 đầu [ʔdăw]), (45)<犬> koo (「狗」の SV 音 câu [kăw]) 及び MV 韻母

-trou [-wəw] 例えば(48)〈角鹿〉hoo (MV 音 hrou [həw]) の3韻母であり、-ây [-əj] を写すのはこの例のみである。-oo 表記が中国語の表記ではどのような音を暗示していたのかを思い出してみると、前記(7)で述べたように [u:] や [o:] [ə:] などであった。そこで思い付くのが MV の「霧」mu [mu] という語である。「雲」を「霧」と誤解したと言うのが筆者の憶測である。因みに de Rhodes の辞書では「雲」は既に mây である。

- (11)一漢字「雷」の MC 音は lei [lei] であり、声母の表記については全く問題がない。韻母について見るために、本表において同韻の語を探してみると他に(19)「北」pee (MC 音 bei [pei]) の例のみである。ここでは -ee で表記されている。そこで、-uie 表記は MC 韻 -ei よりも古い音を留めているか<sup>25)</sup>、或いは例えば中国南部の廈門、潮州、梅県などの方音 [lui] が反映されていると見られる。いずれにしろ音節末に付された -e は「無音」の -e と考えて発音しない方が正しいだろう。

一〈雷〉の意の MV は sâm [səm] であり、後半部の声母の表記については全く問題がない。韻母の表記は不規則に見えるかも知れないが、本表では音節末の -m はすべて -ng で表記されているし、母音の長：短、広：狭は全く区別されていないので問題となる点はない。音節末音の表記について言えば、一方では -n 韻尾、-ng 韻尾はほぼ正確に写されていることから推して、本表の作成にはやはり、当時既に -m 韻尾の区別を失っていた中国人が参画していたことが証明されるのであろう。しかしこの特徴は北方官話系のものであり、中国南部の方言では現在でも依然としてこの区別を保存している点で不満が残る。

さて、本書の〈雷〉のベトナム語表記中に恰も接頭辞のように付されている no- の表記について解釈を試みてみよう。〈雷〉というベトナム語はそれ自身で動詞として用いられることもあるが、〈雷が鳴る〉〈雷が起る〉などと言う時には別の語をこれに付着させなければならない。そこでこの no- も何かそのような語の仲間であろうと考えると、現代ベトナム語に、「破裂する」nô [no] という語と「突然起る」の意の nôi [noj] という語が存在することに思い至る。つまり本表に登録された表記は〈雷が炸裂する〉或いは〈雷が突然起る〉の意ではなかったのだろうか。

- (12)一漢字「閃電」の MC 音は shan dian [ʃan tien] であるが、前半部については前記(6)「山」同様全く問題があるまい。後半部の声母についても、本表では有気：無気の区別をしないのだから全く問題ない。韻母の -ein 表記は、他のすべての同韻の例が -ien 表記であるから誤記であることは明白である。因みに、MC で同韻の(33)「鉛」yuen (MC 音 qian [tʃ'ien]) については後述する。

一〈稲妻〉の意の MV は chop [tʃəp] であり、本表の表記はほぼ MV 音に近い音が反映されていると見られる。母音の -o- [-ə] は、(2)〈空〉では -oe- で写されているが両者は音価的にはそれほど隔りはなかったものと考えられる。

- (13)一漢字「風」の MC 音は feng [fəŋ] であり声母の表記については全く問題がないが韻母の表記はやや不規則に見える。何故ならばここで用いられている -ung 表記は MC 音の -ung



に専用される表記であるからである。但し西欧人にとっては [-uŋ] も [-əŋ] もそれほど遠い音には聞こえなかったのではないだろうか。極端な例では、(58)「糖」tung (MC 音 tang [t'aŋ]) のように MC 音 [-aŋ] さえも -ung で表記したものがある。尚、「風」の -ung 表記については、やはり中国南部の方音、例えば梅県の [fuŋ], 福州の [xuŋ], 広州の [fuŋ] など考慮に入れる必要があるだろう。

一〈風〉の意の MV は gio [zo] であるが、この表記も前記(5)で述べた通り、MV 音にはほぼ近い音が反映されているものと考えられる。

(14)一漢字「日」については前記(7)を参照。漢字「天」の MC 音は tian [t'ien] であるから声・韻母ともほぼ MC 音に近い音が反映されていると考えられる。

一〈日〉の意の MV は ngay [ŋəj] であり、声・韻母とも MV 音に近い音が反映されていると考えられる。尚、-ai 表記は MV [-əj] の他、[-aj] [-əj] にも用いられている。

(15)一漢字「夜」の MC 音は ye [ie] であり、本表の表記は MC の「拼音表記」と全く一致している。しかも例えば(40)「眼」yen (MC 音 yan [ien]), (46)「羊」yang (MC 音 [iaŋ]) などから分かる通り y- も現代「拼音表記」同様 [i] で読まれていたようであるからこれも [ie] と読んで差し支えないであろう。ところで、前記(1)の項で(68)「一」ye (MC 音 yi [i]) の ye 表記は恰も英語の ye [ji:] 〈汝等〉のように [ji:] 乃至は [i] と読むべきだと主張した。筆者の憶測では二つの ye 表記は音価が異なっていたのではないだろうか。

次に、漢字「晩上」の MC 音は wan shang [uan ʂaŋ] であり、「上」の表記については声・韻母とも問題がない。「晩」の w- は本表では他のもう一つの例(86)「万」でも v- で表記されている。もしこれを信ずるならば中国南部の方言、例えば梅県の「晩」「万」[van] など考慮に入れなければならないだろう。

一〈夜〉の意の MV は dēm [ʔdem] である。韻尾の -m が -ng で表記されていることについては前記(11)の項で述べた。問題は MV 声母 d- が t- で表記されていることである。本表では d 声母は正しく d- で表記されているもの(《(1)》〈地〉, 《(2)》〈東〉, 《(21)》〈男〉, 《(22)》〈女〉)と、この例のように t- で表記されているもの(《(29)》〈石〉, 《(32)》〈銅〉, 《(35)》〈頭〉, 《(58)》〈砂糖〉)に分かれる。中国語の表記には t- のみしか用いられなかったのだからその苦勞が偲ばれる。著者も既に打ち開けているように、ベトナム語の B, D, R 音は「中国人にとっても、それらの子音の一つが入った音節はどんなに努力しても発音できないものである<sup>26)</sup>」ことの証左である。このことは、後述するように、b- 声母についても言えることである。

(16)一漢字「天」については前記(14)を参照。

一〈天〉の意の MV は前記(2)同様 troi [tʃəj] でなければならないが、ここでは漢字「天」の SV 音 thiên [t'ien] が写されているものと思われる。韻母の表記は問題がない。声母の表記も本表が無気：有気の区別を全くしないという特徴から、何ら問題とするに値しないであろう。

(17)一漢字「東」の MC 音は dong [tuŋ] であり、声・韻母とも MC 音に極く近い音が反映さ

れている。

一〈東〉の意の MV は漢字「東」の SV 音をそのまま用いて *dông* [ʔdoŋ] である。唯、MV 音でも、奥舌母音 ([u, o, ɔ]) + ŋ は非常に特殊な音である。つまり末尾の -ŋ がその前の母音の円唇性の影響を受け [-ŋ̹m] のように円唇化するのである。上の連鎖はそれぞれ正確には [u<sup>w</sup>ŋ̹m], [o<sup>w</sup>ŋ̹m], [ɔ<sup>w</sup>ŋ̹m] のように発音される。恐らく西欧人には恰もフランス語などの鼻母音のように聞こえたのであろう。de Rhodes の辞書はこれらをそれぞれ -ū, -ou, -aō と表記している。他の -ŋ 末子音はすべて -ng で表記されているのだから、上の連鎖だけはやはりよほど特殊に聞こえたのであろう。本表でも他の -ŋ 末子音はすべて -ng で表記されているが、後舌母音に後続する -ŋ は表記されずただ母音だけが長めに書かれている。この例では -oo と表記されているが、同韻の他の語では (21)〈男〉(dan-) ou (MV 音 *ông* [oŋ]) で ou, (32)〈銅〉tow (MV=SV 「銅」*dông* [ʔdoŋ]) では -ow と書かれ、この表の製作者の苦勞が偲ばれるのである。

(18)一漢字「西」の MC 音は *xi* [ʃi] である。声母の表記については(9)を参照。韻母の表記については(1)を参照。ほぼ MC 音に近い音が反映されているものと考えられる。

一〈西〉の意の MV は漢字「西」の SV 音 *tây* [tǎj] をそのまま採用している。この *tây* と (36)〈手〉*tai* (MV 音 *tay* [tǎj]), (41)〈耳〉*tai* (MV 音 *tai* [tǎj]) は MV でそれぞれ異なる音であるが、すべて同音の *tai* で表記されている。母音の長：短の区別や曖昧性には全く無頓着であった証拠である。

(19)一漢字「北」の MC 音は *bei* [pei] である。有気：無気の区別をしない本表における声母の表記については問題がない。韻母の -ee 表記は他のすべての例では [i:] なる音を表現し、この例のみ [e:] 又は [ei] を表現したであろうという筆者の仮説については前記(1)を参照。

一〈北〉の意の MV は漢字「北」の SV 音 *băc* [ʔbak] をそのまま採用している。既に前記(15)〈夜〉の項で述べた通り、中国人にとっても発音困難であった前声門閉鎖破裂音 [ʔd] は、本表では d- と t- で表記され相当の混乱が見られるが、一方同じ前声門閉鎖破裂音である [b] は、この一例のみが p- で表記されている以外はすべて b- で表記されている。これも混乱の現われかも知れないが、〈北〉の場合、中国語の表記が *pee* のように p- 表記であるためにこれに影響されたとも考えられる。

(20)一漢字「南」の MC 音は *nan* [nan] であるから声・韻母ともほぼ MC 音に近い音が反映されているものと考えられる。

一〈南〉の意の MV は漢字「南」の SV 音 *nam* [nam] をそのまま採用している。-m 末子音が本表では -ng で書かれていることについては既に前記(11)の項で述べた。MV 音にほぼ近い音が反映されていると考えて差し支えあるまい。

(21)一漢字「人」の MC 音は *ren* [ʒən] である。MC 捲舌音声母 r- が舌面的字母 j- で表記されていることについては前記(7)「日頭」のところで述べた。MC 韻母 [-ən] は、同韻の他の例(62)「門」*men* (MC 音 *men* [mən]) では -en で表記されていて不統一である。「人」の

-in 表記については、或いは厦門方音などの [dzin] のような音をも考慮に入れるべきかも知れない。

—この項、英語の Man に対して中国語は「人」を挙げ、ベトナム語は〈男〉を表記している。次項が Woman であるからそれと対比すればベトナム語の表記の方が正しい。

さて、〈男〉の意の MV は dan ông [ʔdan ɔŋ] である。前半の dan の表記はほぼ MV 音に近い音が反映されていると見られる。後半の ông が ou と表記される理由については前記(17)のところで述べた。

(22)一漢字「婦人」の MC 音は fu ren [fu ʔən] である。前半部の声母の表記については問題がないとして、韻母の -oo 表記が [o:] 音ではなく [u:] 音を表現しようとしたものではないかという仮説は、前記(7)の項で述べた。そうすればこの語は MC 音とほぼ同価の音として再構できる。

後半部の gin という表記は、前項(21)の「人」が jin で表記されていたので音価は全く同じものであると思われる。恰も英語の gin [dzin] 〈ジン(酒)〉のような発音として扱えられたためにこのような綴りになってしまったのだろう。

—〈女〉の意の MV は dan ba [ʔdan ʔba] であるから両者ともほぼ MV に近い音が反映されていると考えられる。

(23)一漢字「獸」の MC 音は shou [ʃou] である。声母の表記については問題がない(前記《6》参照)が、韻母の -oo 表記は前記(7)で述べた通り、[-o:] のような音を表現しているのかも知れないが、案外、南中国辺りの方音 [-u] や [-iu] [-ieu] などを反映しているのかも知れず、前記(22)と同音価の -oo [u:] と再構できるのかも知れない。

—〈四足獸〉の意の MV は漢字「獸物」の SV 音 thu vât [t'u vât] をそのまま採用している。しかしここに登録されている表記とは全く符合しない。そこで、これは、憶測の域を出ないが、MV で「下肢」または「獸の蹄」を意味する cǎng [kǎŋ] という語を写しているのではないだろうか。調査者が何らかの〈四足獸〉を指さして、「これは何だ」と聞いた際、被調査者が「これは足だ」と答えたのか、或いは〈四足獸〉の説明が現地の人によく伝わらなかったのかも知れない。

(24)一漢字「禽」の MC 音は qin [tʃ'in] であるが、MC 舌面音が本表では時に閉鎖音 k- で表記される理由については前記(2)「氣」の項参照。韻母の表記については何ら問題はない。

—〈鳥〉の MV は chim [tʃim] であり、声・韻母ともほぼ MV 音に近い音が反映されていると見られる。-m 末子音が -ng で表記されることについては前記(11)を参照。

(25)一漢字「魚」の MC 音は yu [y] であるので、eu 表記はこの中舌音 [y] を表現しているものと思われる。英語の接頭辞 eu- [ju:] 〈良~, 好~〉の綴りの影響かも知れない。同じ表記は(73)「六」leu (MC 音 liu [liəu]) や(76)「九」tcheu (MC 音 jiu [tʃiəu]) にも利用されている。後の二例も素早く発音される時には [y] とほぼ同価の音になるはずであるから、eu 表記

はやはり MC 中舌母音 [y] とほぼ同価の音として再構できるであろう。

一<魚>の意の MV は ca [ka] であり、声・韻母とも MV 音に近い音が反映されているものと思われる。

(26)一漢字「樹」の MC 音は shu [ʃu] である。声母については前記(6)を参照。-oo 表記が [u:] 音を表現していたであろうという仮説については前記(7)を参照。

一<木>の意の MV は cây [kǎj] であり、声・韻母とも MV 音にほぼ近い音が反映されていると見られる。MV 韻 -ây [-ǎj], -ay [-ǎj], -ai [-ai] がすべて -ai で表記されていることについては主として前記(18)を参照。

(27)一漢字「果子」の MC 音は guoz [kuots] である。MC [-uo] 韻が -o で表記されていることについては前記(3)を参照。後半部の「子」は轻声であり、本表ではすべて tse で表記されている。この場合母音の -e は「無音」の e で、発音されなかったであろう。その証拠に、轻声化されない同韻の語例えば(29)「石」、(77)「十」shee (MC 音 shi [ʃi]) は -ee で、(71)「四」soo (MC 音 si [si]) は -oo で表記されているのである。

一<果物>の意の MV は trai [tʃaj] であるが、de Rhodes の辞書にも blái と表記されており、本表の表記はこの時代(18世紀末)までこの複子音 bl- が保存されていたことの明確な証拠である。このことについては、前記(2)<空>(8)<月>の項を参照。

(28)一漢字「花」の MC 音は hua [xua] である。h- の唇音化が wh- で表記されているらしいことは前記(3)<火>の項で述べた。つまり、wh- 表記は h- の唇音化即ち [hw-] を表現しているものであり、全体として MC 音に近い音を反映していると考えてよいであろう。

一<花>の意の MV は漢字「花」の SV 音 hoa [hwa] をそのまま採用している。本表の表記も上記中国語表記同様 h- の唇音化を表現しているものと考えれば、声・韻母とも MV 音に極く近い音が反映されているものと考えられる。

(29)一漢字「石」の MC 音は shi [ʃi] である。声母の表記については前記(6)を参照。また韻母の表記については前記(1)を参照。因みに、同じ中舌母音 [i] でも、舌尖子音に続く時には -ee ではなく -oo と表記され、むしろ韻母 [u] の範疇で扱われている。(71)「四」soo (MC 音 si [si])。

一<石>の意の MV は da [ʔda] である。MV 声母 d- が本表では d- 表記と t- 表記で混乱していることについては前記(15)で既に述べた。故に、この表記は声・韻母ともほぼ MV 音に近い音を反映していると見て差し支えない。

(30)一漢字「金」の MC 音は jin [tʃin] である。MC 声母 [tʃ] [tʃ'] は本表では最も多く tch- で表記されている。(38)「脚」tchiau (MC 音 jiao [tʃiau]), (76)「九」tcheu (MC 音 jiu [tʃiu]), (74)「七」tchee (MC 音 qi [tʃ'i]). 次に多いのが ts- 表記である。(67)「錢」(85)「千」tsien (MC 音 qian (tʃ'ien)). ところで、ts- 表記は MC 声母 [ts] [ts'] の専用であったはずである。舌尖・舌面の区別をしない本表の製作者が、[s] : [ʃ-] をすべて舌尖性の s- で表記すると言う

のなら, [ts-] [ts'-] : [tʃ-] [tʃ'-] もまたすべて舌尖性の ts- で表記するのが筋ではないか. つまり, [tʃ-] [tʃ'-] が ts- で表記されず, 本来は以下の例のような捲舌音の [tʂ-] [tʂ'-] を表記する文字として取って置かれるべき tch- で表記されている方がむしろ奇異だと言うべきであろう.

(61) 「牀」 tchuang (MC 音 chuang [tʂ'uang])

(66) 「船」 tchuan (MC 音 chuan [tʂ'uan])

しかし逆に, (56) 「綱」 tsoo (MC 音 chou [tʂ'ou]) のように tch- 表記が期待される捲舌音であるにも拘らず舌尖性の ts- で表記されていたりするのである. いずれにしろ, MC の舌尖破擦音 [ts-] [ts'-], 舌面破擦音 [tʃ-] [tʃ'-], 捲舌破擦音 [tʂ-] [tʂ'-] はその区別に相当程度の混乱があったと見て良いであろう.

一<金>の意の MV は vang [vaŋ] であるが, この語は元来漢字「黄」の SV 音 hoang [hwaŋ] から借用・俗化したものである. 本表における wh- 表記は h- の唇音化を示すものであることは前記(3)でも既に述べた通りであり, 本表の表記は MV 音 [vaŋ] に近い音を示すと言うより, まだ [hwaŋ] 段階の古い形を示しているように思われる. 因みに, de Rhodes の辞書でも uàng と表記され, 未だ v- 声の語とは区別されていたようである. これらの表記は, [hwaŋ] > waŋ > vaŋ という音韻変遷の過程を如実に物語っているとは言えまいか.

(31)一漢字「銀子」の MC 音は yinz [ints] である. 後半部の「子」については前記(27)を参照. 前半部についてもほぼ MC 音と同様の音が反映されていると見ることができる.

一<銀>の意の MV は bac [ʔbak] であるから, MV 音とほぼ近似の音が反映されていると見られる.

(32)一漢字「銅」の MC 音は tong [t'uŋ] であり, 声・韻母とも MC 音に近い音が反映されていると思われる.

一<銅>の意の MV は漢字「銅」の SV 音 dông [ʔdoŋ] をそのまま採用している. 声母については前記(15)を参照. また韻母についても前記(17)を参照.

(33)一漢字「鉛」の MC 音は qian [tʃ'ien] であるので MC 音とは全く異なる音であるかのように見えるが, 例えば B. Karlgren の再構によると, この語は \*d̥iwan/iwän/k'ien とあり, その中古音から現代音への変遷は不規則であることが指摘されている<sup>27)</sup>. 本表の表記はこの不規則に変化した現代北方官話音を全く反映せず, 中古音にやや近い音, 乃至は南部中国の方音, 例えば厦門方音 [ian], 梅県方音 [jan], 広州方音 [jyn] などに近い音が反映されていると見られる. 一<鉛>の意の MV は chi [tʃi] である. 声・韻母ともほぼ MV 音に近い音が反映されていると見られる. 尚, 韻母の -ee が [-e:] や [-ɛ:] 音を示すよりむしろ [-i:] を示すであろうという仮説については前記(1)の中国語表記の項を参照.

(34)一漢字「鉄」の MC 音は tie [t'ie] であり, 声・韻母とも MC 音にほぼ近い音が反映されていると思われる. 尚, e の上のアクセント符合については前記(8)を参照.

—〈鉄〉の意の MV は sāt [sāt] であるが、本表には漢字「鉄」の SV 音 thiet [t'iet] が写されている。声母については前記(16)を参照。問題は韻母の表記である。本表では、入声末子音 -p, -t, -k はすべて正しく表記されているにも拘らず、本例のみ末尾の入声音 -t が表記されていない。入声音をこれだけ明瞭に書き取っているところを見ると、やはりこれを現代まで保存している中国南部の方言を母語とする中国人が本表の作成に関与してであろうことを想像させるが、本例では北方官話の影響を強く受けて、すぐ隣の入声なしの中国語と全くの同形で表記されてしまったのである。

(35)—漢字「頭」については前記(7)で既に述べた。

—〈頭〉の意の MV は dāu [ʔdǝw] である。声母の表記については前記(15)を参照。韻母の -oo 表記については前記(10)を参照。但し、MV 韻母 -āu はこの -oo 表記と、(49)〈鳩〉 bo-kau (MV 音 bō cāu [bo kǝw]) のような -au 表記、(52)〈油〉 taw (MV 音 dāu [zǝw]) のような -aw 表記に分かれ、後二者の方がより MV 音に近い音が反映されているように思われる。本例の -oo 表記は、すぐ隣接して書かれている中国語の表記に影響され、(45)〈犬〉 koo (漢字「狗」の SV 音 cāu [kǝw]) の場合には、〈犬〉の意の MV である cho [tʃɔ] の韻母の影響があるのではないだろうか。後述(45)の項を参照。

(36)—漢字「手」の MC 音は shou [ʃou] であり、声・韻母とも MC 音にほぼ近い音が反映されている。尚、韻母の表記については前記(7)を参照。

—〈手〉の意の MV は tay [tǎj] であり、声・韻母とも MV 音にほぼ近い音が反映されていると見られる。尚、この表記については前記(18)を参照。

(37)—漢字「心」の MC 音は xin [ʃin] であるから、声・韻母とも MC 音にほぼ近い音が反映されていると見られる。尚、声母の表記については前記(9)を参照。

—〈心臓〉の意の MV は tim [tim] であるが、その形状のため、類別詞として前記(27)〈果物〉の意の trai [tʃaj] を付けて trai tim と言うことがある。調査者は、粗忽にもこの前半部の trai を「心臓」と誤解して記録してしまったのである。尚、この表記については前記(27)〈果物〉の項を参照。

(38)—漢字「脚」の MC 音は jiao [tʃiau] である。韻母については全く問題がないとして、声母については、前記(30)を参照。

—〈足〉の意の MV は chân [tʃǎn] である。先ず韻母については母音の広：狭を区別しない本表では -an の表記が期待されるにも拘らず -en と表記されていてやや不規則である。ところが de Rhodes の辞書によると面白いことに chân ではなく chên と表記されているのである。[-en] がいつ [-ǎn] に変じたのかは分からないが、18世紀末までは〈足〉は [tʃen] と発音されていたのである。尚、声母の tch- 表記は、他の MC 声母 ch- がすべて本書では ch- で表記されていることから、全く不規則であるが、中国語の各種の破擦音に最も多く利用されている tch- 表記の明らかな影響であり、ch- 表記と何ら音的差異はないものと思われる。

(39)一漢字「面」の MC 音は mian [mien] であり、声・韻母とも MC 音にほぼ近い音が反映されていると見られる。

一〈顔〉の意の MV は măt [măt] であるが、本表では漢字「面」の SV 音 diên [zien] が写されようとしたものらしい。但し、漢字「面」はベトナムでは [m-] 音で読まれたことは一度もなく、この表記は中国語音表記にとらわれた著者の誤解に基く表記と思われる。因みに、現代ベトナム語にはこれとよく似た音形の mein [miên] なる語があり、やはり漢字「面」から借用・俗化されたものと考えられるが、意味は〈方面・地域〉であり、〈顔〉の意は全くない。

(40)一漢字「眼睛」の MC 音は yan jing [ien tʃiŋ] である。前半部の表記については全く問題がない。後半部の声母は、前記(30)で述べた通り本表では tch- または ts- で表記されるのが期待されるが、実は、本例と(59)「家」shia (MC 音 jia [tʃia]) が sh- で表記されているのである。sh- 表記は前記(6)でも述べた通り、捲舌摩擦音 [ʃ-] の表記に専用された文字であり、それが舌面破擦音 [tʃ-] の表記に用いられているのは全く奇異である。そこで、因みにベトナム語の表記の方を目を移してみると、ベトナム語の舌面破擦音 [tʃ-] がやはり一例であるが sh- で表記されているのがある。

(60) 〈寺〉shoa (MV 音 chua [tʃuǎ])

他はすべて ch- (一例のみ tch-) で表記されている。

このような点から、上の sh- 表記は何か特別な音の表現であると見るよりは、単なる表記上の混乱と見る方が妥当であろう。

一〈目〉の意の MV は măt [măt] であり、声・韻母とも MV 音にほぼ近い音が反映されているものと思われる。

(41)一漢字「耳朵」の MC 音は er duo [ə tuo] である。後半部の韻母が -o で現われることについては前記(3)を参照。前半部では MC の曖昧母音 [ə] は eu で表記されているが、前記(25)「魚」の eu が表現したであろう [y] や(73)「六」leu などの -eu が表現したであろう MC 韻母 -iu [-iəu] とはどれほどの音価の差があったのであろうか。しかも MC で声調を除けば全くの同音である(69)「二」は eul ではなく ul と表記されているのである。このことを勘案すると、この eul 表記は [yl] などの音で読むより文字通り [eul] と読んだ方が実情に合っているのではないだろうか。[eul] と [ul] ではそれほどの差は感じられなかったのだろう。いずれにしろ、本表の作成者を表記の点で悩ました音であったのであろう。また、語尾の [-r] を -l で表記しているのも苦肉の策である。英語の or や our の語尾とは何か異なった音が聞こえたのだろうか。

一〈耳〉の意の MV は tai [tai] であるので、声・韻母とも MV 音に近い音が反映されているものと考えられる。尚、前記(18)〈西〉の項を参照。

(42)一漢字「牛」の MC 音は niu [niəu] であるが他の同韻の語がすべて -eu で表記されているのに対し、この例のみ -ieu と表記されている。-eu 表記は文字通り [eu] 音か、前記(25)「魚」

の項でも述べた通り [y] 音を表現しているのに対し、この -ieu 表記は文字通り [ieu] 音を示していると思われるから、より MC 音 [iəu] に近いのではあるまいか。

—〈牛〉の意の MV は bo [bo] であるので、声・韻母とも MV 音に近い音が反映されているものと考えられる。

(43) —漢字「馬」 MC 音は ma [ma] であるので、声・韻母とも MC に近い音が反映されているものと考えられる。

—〈馬〉の意味の MV は ngua [ɲuā] であるが、本表には漢字「馬」の SV 音 ma [ma] がそのまま写されている。声・韻母とも現代 SV 音に近い音が反映されている。本表にはベトナム語と言いながら、単に漢字のベトナム語読みが記録されることが甚だ多い。

(44) —漢字「驢子」の MC 音は lüz [lyts] である。「子」については前記(27)を参照。前半部は、MC 音から前記(25)「魚」のように leu なる表記が期待されるが loo ([lo:] 乃至 [lu:]) で表記されている。これも中国南部の方音例えば梅県や廈門の [lu] や潮州の [lur] 音などの存在を考慮に入れなければならないだろう。

—〈驢馬〉の意の MV は lura [luā] である。これは、漢字「驢」(SV 音 lu [lu]) から借用・俗化した語である。声母の表記には問題がない。韻母の表記 -ooa は、本表ではその他(56)〈絹〉looa (MV 音 lua [luā]) や(60)〈寺〉shooa (MV 音 chua [tʃuā]) のように MV 音 [uā] にも利用されている。前記(7)でも見た通り本表の中国語表記に用いられた -oo 表記は [u:] [o:] [ə:] のような音を表現していたようであるので、-ooa が [uā] や [uā] に近い音を表示していたと考えても差し支えないであろう。

(45) —漢字「犬」の MC 音は quan [tʃ'yan] である。Karlgren の再構によると \*k'iwən/k'iwən/k'üan のような変遷を遂げた語であり<sup>28)</sup>、これも(2)「氣」、(24)「禽」や(50)「鷄(蛋)」kee (MC 音 ji [tʃi]) 同様、舌面化以前の古い音の残存か或いは中国南部の方音例えば廈門・梅県方音の [k'ian] などの影響も考えられる。韻母の表記も不規則である。尚、声母の表記については前記(2)も参照。

—〈犬〉の意の MV は cho [tʃo] であり韻母は正しそうであるが、恐らくこれは漢字「狗」の SV 音 câu [kəw] を写したものであろう。声母の表記については問題がない。韻母の表記については前記(10)及び(35)を参照<sup>29)</sup>。

(46) —漢字「羊」の MC 音は yang [iaŋ] であり、MC 音に極く近い音が反映されていると見られる。

—〈羊〉の意の MV は chiên [tʃien] であり、声・韻母とも MV 音に近い音が反映されているものと考えられる。

(47) —漢字「猫」の MC 音は mao [mau] であるが、Karlgren の再構にも二様の変遷が述べられており<sup>30)</sup>、

\*m̥iɔg/m̥iäu/miao



\*mǒg/mau/mao

本表の音は前者の変遷過程が反映されているものと思われる。中国南部の方言でもほとんど前者の音形が保存されている。

一〈猫〉の意の MV は meo [mɛw] であるが、本表は漢字「猫」の SV 音 miêu [miew] を写したものであろう。上記 MV の meo も漢字「猫」の SV 音より借用・俗化したものと思われるが<sup>31)</sup>、本表に表記されたものはこの音ではなく SV 音の方であろうと思われる。中国表記の miao とベトナム語表記の miao とはどれほどの音的差異があったのであろうか。

(48)一漢字「山鹿」の MC 音は shan lu [ʃan lu] である。「山」については前記(6)を参照。lu が loo で表記されているのは、前記(7)で述べた通り規則的である。

一〈鹿〉、中でも〈角鹿〉に当たる MV は hươu [huəw] である。声母の表記は問題ない。韻母の -oo 表記は、前記(10)で述べた通りほぼ規則的な表記と見做すことができよう。-oo 表記は、中国語の表記では [u] [ou] [ə] を示すことが最も多かったが、ベトナム語の表記では [əw] が最も多くこの [uəw] が一例あるのみである。

(49)一漢字「鸽子」の MC 音は gez [kəz] である。「子」については前記(27)を参照。前半部の韻母 [ə] が -oo で表記されることについては前記(5)の項を参照。

一〈鳩〉の意の MV は bồ câu [bo kəw] であり、MV 音に近い音が反映されていると見られる。但し、後半部の MV 韻母 [əw] は、この例では -au で表記されているが、(52)〈油〉 taw (MV 音 dàu [zəw]) では -aw、前記(35)〈頭〉と(45)〈犬〉では -oo で表記されている。-au, -aw, -oo でどれほどの音価の差が意識されていたのであろうか。

(50)一漢字「雞蛋」の MC 音は ji dan [tʃi tan] である。後半部は声・韻母の表記とも問題がない。前半部の「鷄」が k- で表記されていることは、前記(2)で指摘した通り、古い音の残存か中国南部の方音の影響と考えられる。因みに、Karlgren の再構によると、\*kieg/kiei/ki のような変遷であり<sup>32)</sup>、現代中国南方方言は例えば厦門 [ke], 福州 [kie], 梅県 [kai] などがある。韻母の表記についても前記(1)を参照。

一〈卵〉の意の MV は trứng [tʃwŋ] である。これを de Rhodes の辞書で見ると trứng とあり、当時〈卵〉は [tlwŋ] のように複子音で発音されていたことが知られる。即ち、(1)(8)(27)(37)で、MV 声母 tr- の一部が bl- なる複子音に遡り、それが18世紀の最後期まで保存されていたことが証明されたのであるが、更にここで、同じ MV 声母 tr- の一部が tl- なる複子音に遡り、それが18世紀の最後期まで保存されていたことが明瞭に証明された訳である。しかも、前出 bl- 表記とは異なり、殊更に複子音の最初の要素を引き離して te-l- のように表記されているのが注目される。te- 中の e は [e] 音を意味するのではなく所謂「無音」の e を意識したものであろうから全体で [tə-lwŋ] と読むべきであろう。当時はまだ、複子音のそれぞれの要素を引き離して発音する意識が残存していたのであろうか。尚、韻母の表記 -ung は、MC 韻母 [uŋ] の他、(13)「風」fung (MC 音 feng [fəŋ]) の [əŋ] などにも利用されており、[wŋ] の表記に用

いられていても何ら奇異とするに値しない。

(51)一漢字「鵝」の MC 音は e [ə] である。韻母の -oo 表記については、前記(5)で述べた通り規則的である。しかし、声母として表記されている g- については、やはり厦門方音の [go] などを考慮に入れざるを得ないであろう。因みに、Karlgren の再構によれば \*ngâ/ngâ/o であり<sup>33)</sup>、鼻濁音 ŋ- である。

一<鵝鳥>の意の MV は ngông [ŋoŋ] である。声母の表記については問題がない。韻母の表記については前記(17)を参照。

(52)一漢字「油」の MC 音は you [iəu] であり、本表の表記 yeo はこの MC 音にはほぼ近似の音が反映されていると見られる。中国南部の方音、特に福州方音 [ieu] により近いと言うべきであろう。

一<油>を意味する MV は dâu [zəw] であり、この語も漢字「油」(SV 音 du [zu]) から借用・俗化したものである。韻母の表記について、同韻の語が -au, -aw, -oo と書き分けられていることについては前記(49)を参照。問題は声母の表記である。現代ベトナム語正書法における字母 d- は [d] の音価を持たず [z] 音で読まれているが、これは元来 [j] 音から変じたものであり、中・南部地方では現在でも [j] 音で読まれている。アメリカの言語学者 Thompson は、現在のベトナム語正書法「国語字」(ベトナム語では chữ quốc ngữ と呼ぶ)体系の成立を de Rhodes の時代まで遡って分析し、その d- 字母の成立について以下のように述べている<sup>34)</sup>。

「字母 d によって表示される音は現代音の体系外の音である。(de Rhodes の) 記述によれば、舌尖を上歯の後に押しつけて発せられる閉鎖音であるが、恐らく、舌面も歯茎の峰の部分に当たっていたであろう(二次的調音は口蓋化)。この表記体系が形成された当時、この音は、d ([ʔd] 字母) で書かれる音よりは伝道師達が話していたロマンス諸語の d の音を喚起したことは明らかである。この口蓋化歯閉鎖音は、北部方言地帯(トンキン)と中部の北部一帯に拡がって行った。後者の地域では、Maspero はその当時まだこの発音を保存しているいくつかの地域について観察しているが、前者の地域では完全に消滅し、今日のハノイとその周辺地域では [z] の音に変じている」

一方、その当の Maspero はこの d- 字母について以下のように述べている<sup>35)</sup>。

「ベトナム語の d- は一般的に、往古の頭子音 y- から派生したものである。南部と中部の相当数の方言において今日までこの字母にこの音価が保存されている。しかし、北部においては、de Rhodes が17世紀に記録し、今日も尚、Quỳnh-lưu や Nhỏ-lâm, Hà-tĩnh など(中部ベトナム方言)で出会うことのある dʲ という形を経て歯音の z になってしまった。ムオン語の諸方言にも同様の異音が現われる。即ち、y (Thạch-bì), t (Uý-lô, Hạ-sửu, Thái-thịnh), t または y (Lâm-la), t または z (Mĩ-son) など」(中略)

「この変化(南部と中部のいくつかの方言はこの変化を蒙っていない)はそれほど古いものではない。北部では、これは15世紀以降に起こったものであろう。何故ならば、『華夷訳語』

はこの現代ベトナム語の d 字母の語を y の頭子音を持った漢字で表記しているからである」(中略)

「それ故、現代ベトナム語の d が形成されたのは15～17世紀のことである」

長い引用になってしまったが、上のような記述によりこの d- 字母は [j>ɟ>ʒ>z] という変化を蒙ったことが窺われ、しかも [j>ɟ] の変化は15世紀以降17世紀に属し、[ɟ>z] の変化は更にそれ以降のことに属することが証明された訳である。

再び Barrow の表に戻ろう。本表では MV 声母 d- の語は、t- または j- で書かれていることに注目しよう。

(52) 〈油〉 taw (MV 音 dāu [zəw])

(63) 〈刀〉 tiau (MV 音 dao [zaw])

(54) 〈酢〉 jing (MV 音 dām [zəm])

Barrow が写したとされる言葉はトゥラン即ち現在のダナンの言葉であり、方言区画から言えば中部方言に属する言葉である。しかし、前記(5)の項でも述べた通り、本表に記されているベトナム語はほとんど中部方言の特徴を備えていず、むしろ北部方言の特徴を示している。もし真に中部方言を反映したものであるならば上記の諸語はすべて y- のような音で記されなければならない筈である。それが、中国語の表記でも MC 捲舌声母 r- [ʒ] に専用され、ベトナム語表記では(5)(13)で [z] 音を表記するのに用いられている j- と、中国語表記では [t, tʰ], ベトナム語表記では [d, t, tʰ] 音を記すのに用いられる t- 表記が用いられているのである。これはすべて、ベトナム北部と、ダナンなどを含まない中部の北方地帯の音声的特徴を暗示しているのである。

先ず(54)〈酢〉の声母の j-, これは摩擦音 [z] を反映していることは間違いない。しかし、韻母の表記に注目したい。MV の韻尾 -m が本表では -ng で表記されることは前記(11)などで述べた通りである。もし本表中に同韻の語を探すと(11)〈雷〉 sang (MC 音 sâm [səm]) が目につく。つまりこの MV 韻母 [əm] は、ごく規則的に -ang と表記されているのである。ところがこの〈酢〉の韻母は -ing で表記されている。この -ing 表記は(25)〈鳥〉 ching (MV 音 chim [tʃim]) のように MV 韻母 [im] に利用された表記である。そこで、この表記からはやはり、前舌母音か、または何らかの強い口蓋化音を再構せざるを得ないであろうと思う。つまり、[zim] 或いは [ziəm] または [zəm] のような音である。

次に他の二例に目を移してみよう。ここで注目すべきは、(63)〈刀〉が tau ではなく tiau と表記されていることである。これが [t] または [d] の口蓋化音を表示することは明白である。de Rhodes の辞書でも dao という表記のほか dēao という表記が見られ、これは明らかに前引 Thompson, Maspero の言う口蓋化音 [ɟ] を強く意識した表記であることは疑いもないことである。そこで本表の表記に基いて筆者は [ɟaw] という音を再構したい。そして、更にこの口蓋性を黙殺した表記が本項の〈油〉 taw の表記であったのである。やはりこれも [ɟəw] と再構し

ておきたい。Maspero がムオン諸語にこの字母の語を t 音で読む方言があると記述していることも納得できることである。

要するに、上の各語の表記は、[j>ɟ>ʒ>z] という変遷を遂げたであろう MV 声母 d- の第二～第三段階の変遷過程を見事に反映したものであったのである。[j] の段階で現在尚止まっている中部方言の痕跡は一切留めていないのである。

(53)―漢字「米」の MC 音は mi [mi] であり、MC 音にほぼ近い音が反映されていると思われる。韻母の表記については前記(1)を参照。

―〈米〉の意の MV は gao [saw] であるので、声・韻母とも MV 音と近似の音が反映されていると思われる。

(54)―漢字「醋」の MC 音は cu [ts'u] であり、声・韻母とも規則的な反映である。声母の表記については前記(30)を参照。また韻母の表記については前記(22)を参照。

―〈酢〉の意のベトナム語の表記については、前記(52)で詳述した。

(55)―漢字「塩」の MC 音は yan [ien] であるので、これもほぼ MC 音と同価の音が反映されていると見て良いであろう。

―〈塩〉の意の MV は muôi [muəj] であるから、声・韻母とも MV 音とほぼ同価の音が反映されていると見られる。

(56)―漢字「綢」の MC 音は chou [tʂ'ou] であり、この声母の表記が不規則であることについては前記(30)の項で述べた。もし本表の表記を正しいとすれば、本項の「綢」tsou (MC 音 chou [tʂ'ou]) と(54)「醋」tsou (MC 音 cu [ts'u]) が何と同価の音になってしまうのである。

著者達、西欧人にとっては、これら各種の破擦音は聞き分けが相当に困難だったのであろう。更に考慮に入れておくべきことは、中国南部の人々がほとんど捲舌音ができないということである。本表の作成には中国南部の方言を話す人が参画していたであろう疑いがあり、その影響も考えられるのではあるまいか。因みに、例えば梅県ではこの「綢」も「醋」も全く同声の [ts'] で読まれているのである。

―〈絹〉の意の MV は lua [luə] である。声母の表記には問題がないとして、韻母の表記については前記(44)を参照。

(57)―漢字「棉花」の MV 音は mian hua [mien xua] である。後半部の表記については前記(28)「花」の項を参照。前半部についても、声・韻母とも MC 音とほぼ同価の音が反映されていると思われる。

―〈綿〉乃至〈綿花〉の意の MV は bông [ʔboŋ] である。声母の表記については全く問題がない。問題は韻母の表記である。既に(17)〈東〉の意の MV の解説の所で、奥舌母音+ŋ は既に de Rhodes の時代から今日まで非常に特殊な音であることを述べた。本表の製作者にとっても余程奇異に聞こえたのであろう。本表に同韻の語を求めれば、(17)〈東〉のほか、(21)〈男〉と(32)〈銅〉、(51)〈鵝鳥〉があり、(17)と(51)は -oo で表記され、(21)は -ou、(32)は -ow で表記さ

れている。そこにもう一つ本項の -aou 表記を付け加えなければならないだろう。何と同韻の語が本表では -oo, -ou, -ow, -aou の四通りもの異なった方法で表記されているのである。製作者達の苦勞が偲ばれて非常に興味深い。

初稿の段階では、この表記を〈綿布〉の意の MVvai [vaj] と比較してみたが、声母、韻母の表記とも合致せず、この比較が誤りであることに後で気が付いた。一方 MV bông [boŋ] との比較<sup>36)</sup>は、声母の表記は問題なく合致するし、韻母の表記も他の同韻の各語の表記と比べてそれほど無理があるとは思われない<sup>37)</sup>。本表製作者のこの韻に対する「聞こえ」の差がそのまま反映されたものであろう。

(58)一漢字「糖」の MC 音は tang [t'aŋ] であり、他の同韻の例からも tang という表記が期待されるが例外的に tung と表記されていることについては前記(13)の項でも述べた。これも、中国南部の方音、例えば福州の [toun] や潮州の [t'uŋ] を考慮に入れるべきであろう。

一〈砂糖〉の意の MV は đưong [ʔduəŋ] または đang [ʔdaŋ] であるが、これは漢字「糖」の SV 音をそのまま採用したものである。本表の表記は MV 音にほぼ近い音の反映と見ることができよう。

(59)一漢字「家」の MC 音は jia [tʃia] であり、sh- の声母表記が不規則であることは前記(40)の項でも述べた。もし、本表の作成に南部中国の方言を話す人が参画していたとするならば、この語は、南部中国のほとんどの地域で [ka~ke] で読まれているので、北方官話の [tʃia] が [sia] のような音に聞こえたとしても不思議ではないであろう。

一〈家〉の意の MV は nha [na] であり、韻母の表記はともかく、声母の d- 表記は、本表では MV 声母 d- [d] に専用される表記であり、いかにも不規則である。ところが、この語を de Rhodes の辞書で見ると nhà という記述の他, dà の記述が見える。de Rhodes の時代、d- 声母は前記(52)で述べた通り、[d] 音であったのだから、その時代、〈家〉は [ɟa]~[na] の両方で読まれていたのであろう。その現象は今日までも受け継がれ、MV 声母 nh- で読まれる語の中にはMV 声母 d- (今日では [z] 音) と混用されるものが可成り存在する。思いつくままに二〜三例を挙げると、

nhên [nɛn] ~ dên [zɛn] 〈蠅〉

nhôi [noɪ] ~ dôi [zoɪ] 〈詰める〉

nhông [noŋ] ~ dông [zoŋ] 〈さなぎ〉

のようなものがある。

上のことから、本表の〈家〉の表記は、当時の発音を正しく反映していると見ることができる。因みに、この〈家〉 nha は、漢字「家」(SV 音 gia [za]) から借用・俗化したものらしく、SV 音の方が [ja > ɟa > ʒa > za] と言う、前記(52)で述べた正統な変遷を辿ったのに対し、この語は [ja > ɟa > na] という俗音化の道を辿ったのである。

(60)一漢字「廟」の MC 音は miao [miau] であるから、声・韻母とも MC 音に近い音が反映

されている。

一〈寺〉の意の MV は chua [tʃuǎ] である。韻母の表記については前記(44)、声母の表記の不規則性については前記(40)の項を参照。

(61)一漢字「牀」の MC 音は chuang [tʃ'uaŋ] であり、声・韻母の表記とも MC 音に近い音が反映されている。

一〈寝台〉の意の MV は giuroug [zuǎŋ] である。漢字「牀」の現代 SV 音は sang [saŋ] であり、本項の表記はこのいずれにも当たらない。しかも、ベトナム語の表記にこの tch- が用いられるのは(38)〈足〉とこの語のみで、前者は中国語の各種の破擦音に多く利用されている tch- 表記の影響であることは前記(38)の項でも述べた。後者も、左隣の中国語の表記と全く同じことから、発音・表記とも中国語の表記に大きな影響を受けたのであろう。但し、MV 声母 gi- は同じく tr- [tʃ] 声母や ch- [tʃ] 声母（現代北部方言では同音）と非常に深い関係にあり、主として北部では現在でも tr- 声母の語は gi- 声母で読まれることがある。tr- 声母の往古の音つまり捲舌の [tʃ] と gi- 声母の往古の音 [ʒ] とは何か共通した音的要素があったのであろう。また、de Rhodes によると、gi- 声母の語の同意語として ch- 声母の語が幾つか挙げてある。

gim        ~    chīm        〈沈む〉

giun       ~    chun        〈縮む〉

giuroug   ~    chương    〈張る〉

このようなことから〈寝台〉 giuroug も、当時、[zuǎŋ] の他 [tʃuǎŋ] 乃至 [tʃuǎŋ] なる音で読まれることがあったのかも知れない。

(62)一漢字「門」の MC 音は men [mən] であり、ほぼ MC 音に近い音が反映されていると見られる。

一〈戸〉の意の MV は cura [kuǎ] であり、〈門〉の意の MV は công [koŋ] であるから本項の表記 pan には全く当たらず不明である。本表では p- 表記は(19)〈北〉 pak (MV 音=SV 音 bắc [bǎk]) とこの語のみであり、前者は中国語の方音の影響と考えた。これも、もしかしたらベトナム語ではなく、例えば漢字「門」の厦門方音 bun などが紛れ込んだのではないだろうか。

(63)一漢字「刀」の MC 音は dao [tau] であり、声・韻母ともほぼ MC 音に近い音が反映されている。

一〈刀〉のベトナム語表記については前記(52)で詳述した。

(64)一漢字「犁」の MC 音は li [li] であり、声・韻母ともほぼ MC 音に近い音が反映されていると思われる。尚、韻母の表記については前記(1)を参照。

一〈犁〉の意の MV は cây [kǎj] であり、声・韻母ともほぼ MV 音に近い音が反映されている。尚、韻母の表記については前記(18)を参照。

(65)一漢字「錨」の MC 音は mao [mau] であり、声・韻母ともほぼ MC 音に近い音が反映されている。

一<錨>の意の MV は neo [nɛw] であり、本項の表記と全く一致せず、不明である。

(66)一漢字「船」の MC 音は chuan [tɕ'uan] であり、声・韻母ともほぼ MC 音に近い音が反映されていると見られる。

一<船>の意の MV は tau [tǎw] であり、声・韻母とも MV 音に近い音が反映されている。

(67)一漢字「錢」の MC 音は qian [tɕ'ien] である。声母の表記については前記(30)を参照。

一<お金>の意の MV は tiên [tien] であり、声・韻母とも MV 音に近い音が反映されている。

(68)一漢字「一」の MC 音は yi [i] である。韻母の表記がやや不規則であることについては前記(1)の項を参照。

一<一>の意の MV は môt [mot] であり、声・韻母とも MV に近い音が反映されている。

(69)一漢字「二」の MC 音は er [ə] である。同音の「耳」との表記の差なども含めて前記(41)を参照。

一<二>の意の MV は hai [haj] であり、声・韻母とも MV に近い音が反映されている。

(70)一漢字「三」の MC 音は san [san] であり、声・韻母とも MC 音に近い音が反映されている。

一<三>の意の MV は ba [ʔba] であるが、本項に登録されている音は漢字「三」の SV 音 tam [tam] に違いない。但し、同韻の語、例えば(20)<南> nang (MV=SV 音 nam [nam]) などから tang なる表記が期待されるが、ここでは teng となっていてやや不規則である。

(71)一漢字「四」の MC 音は si [si] である。MC で同韻の(29)「石」shee (MC 音 shi [ɕi]) は -ee で表記されているのに対し、これは -oo で表記され、むしろ [u:] 音を想起させる。舌尖音 [s] と捲舌音 [ɕ] という声母の差によるものであろう。廈門方音の [su] などの影響も考慮に入れるべきかも知れない。

一<四>の意の MV は bôn [bon] であり、声・韻母とも MV に近い音が反映されている。

(72)一漢字「五」の MC 音は wu [u] であるので、他の同韻の語から本表では oo が期待されるが ou となっている。しかしこの表記は決して [ou] とは発音されなかったであろう。何故なら、MC 韻母 [ou] はすべて -oo と表記されているからである。これについては前記(6)の項を参照。

一<五>の意の MV は nǎm [nǎm] であるが、<十五>以上の<五>の意味では lǎm [lǎm] という形が現在でも用いられている。本項に登録されている音は後者の音であろう。因みに、語尾の -ng 表記については前記(11)を参照。

(73)一漢字「六」の MC 音は liu [liəu] である。韻母の表記については前記(25)を参照。

一<六>の意の MV は sau [sǎw] であるが、本項に登録されている音は漢字「六」の SV 音 luc [luk] と言うよりは、漢字「六」の中国南方方音、例えば廈門、潮州方音の [lak] などの影響が色濃く表現されている。

(74)一漢字「七」の MC 音は qi [tɕ'i] である。声母の表記については前記(30)、韻母の表記については前記(1)を参照。

- 一<七>の意の MV は bay [bǎj] であり、声・韻母とも MV 音にほぼ近い音が反映されている。尚、この韻母の表記については前記(18)を参照。
- (75)一漢字「八」の MC 音は ba [pa] であり、声・韻母とも MC 音に近い音が反映されている。
- 一<八>の意の MV は tam [tam] であり、声・韻母とも MV 音に近い音が反映されている。尚、韻母の -ng 表記については前記(11)を参照。
- (76)一漢字「九」の MC 音は jiu [tʃiəu] である。声母の表記については前記(30)を、韻母の表記については前記(25)を参照。
- 一<九>の意の MV は chin [tʃin] であり、声・韻母とも MV 音に近い音が反映されている。
- (77)一漢字「十」の MC 音は shi [ʃi] であり、声・韻母とも MC 音に近い音を反映している。尚、韻母の表記については前記(1)を参照。
- 一<十>の意の MV は mui [muǎj] であるが、本項には漢字「十」の SV 音 tháp [tʰəp] が表記されているものと思われる。本表の製作者は有気：無気の区別を全くしないから声母の表記は極く自然であるが、韻母の短くて曖昧な母音を -aa- と長めに書いているのが気になる。
- (78)一漢字「十一」の MC 音は shi yi [ʃi i] であるが、前記(77)と(68)を参照。
- 一<十一>の意の MV は mui mô [muǎj mot] であり、ここに至って初めてベトナム語の<十>が正確に写されることになった。韻母の -oei 表記は前記(2)<空>で MV 韻母 [əj] に既に用いられており、ここで [uǎj] に用いられるのも極く自然なことであろう。全体ではほぼ MC 音に近い音を反映していると見做される。<一>については前記(68)を参照。
- (79)一漢字「十二」の各表記については前記(77)と(69)を参照。
- 一<十二>のベトナム語表記については前記(78)と(69)を参照。
- (80)一漢字「二十」の各表記については前記(69)と(77)を参照。
- 一<二十>のベトナム語表記については前記(69)と(78)を参照。
- (81)一漢字「三十」の各表記については前記(70)と(77)を参照。
- 一<三十>の意の MV は ba mui [ʔba muǎj] である。ここに表記されている音は全く滑稽な音で、<三>は漢字「三」の SV 音、<十>は MV の組み合わせであり、構成としても全く出鱈目である。この表の作成にベトナム人が参画していたとしたらこれほど不可解な表記はない。
- (82)一漢字「三十一」の各表記については前記(70)(77)(68)を参照。
- 一<三十一>の意の MV は ba mui mô [ʔba uǎj mot] であるが、前項同様<三>のところが SV 音で、不可解な構成である。
- (83)一漢字「三十二」の各表記については前記(70)(77)(69)を参照。
- 一<三十二>の意の MV は ba mui hai [ʔba muǎj haj] であり、前項同様不可解な構成になっている。
- (84)一漢字「百」の MC 音は bai [pai] である。MC での同韻語(4)「海」hai (MC 音 hai



[xai]) では -ai で韻母が表記されているのに、本項では -e の表記になっている。潮州方音の [peʔ] などを想起させるのである。

一〈百〉の意の MV は (môt) trâm [(mot) tʃăm] であり、韻母の表記には問題があるまい (-m の -ng 表記については前記(11)を参照)。問題は声母の kl- 表記である。de Rhodes の辞書によると〈百〉は tlăm であり、(50)〈卵〉の表記同様、本表では tlang 乃至は te-lang という表記が期待されるのであるが、本項では kl- で表記されているのである。kl- は tl- の誤りであるのだろうか。否。Maspero によるとムオン語の方言の中に今尚 kl- 声を保存するものがあるのである。

〈百〉 klăm (Thạch-bì, Mĩ-sơn, Ủy-lô<sup>389</sup>)

そこで Maspero は、周辺諸語と比較して当時 (de Rhodes の時代) のベトナム語声母 tl- は、kl- に遡ることを論証し、kl- から tl- への変化は恐らく (漢字音が形成された10世紀以前の)<sup>プロト</sup>原ベトナム語時代に属すものであると結論した<sup>39)</sup>。これに対して陳荆和は、『安南訳語』に MC 声母 tr- を持つ語の一部が中国語音の k- や k'- で音註されることに注目して Maspero 説を批判し、『訳語』の時代 (15～6 世紀) にはまだ kl->tl- の変化は進行中で、tl->tr- の変化と並行して17～19世紀に至る間に完了したであろうとした<sup>40)</sup>。しかし、いずれにしろ de Rhodes の辞書には kl- 表記の語は一語も見られずその時代 (17世紀中葉) には最早 kl- なる音は存在していなかったと考えることができるのだが、奇しくも本書に kl- なる音が登録されているところから推して、この kl->tl- への変化はこの時代 (19世紀最初期) まだまだ一部で完了していなかったと考えるべきであろう。

(85)一漢字「千」の MC 音は qian [tʃ'ien] であるからほぼ MC 音に近い音が反映されていると考えられる。尚、声母の表記については前記(30)を参照。

一〈千〉の意の MV は nghin [ɲin] である。韻母の表記は問題ないとして、声母の表記はやや不規則である。本表に MV 同声の語を求めれば、(14)〈日〉、(51)〈鵝鳥〉があるがいずれも ng- で表記されていて、ngk- の表記は本例のみである。de Rhodes の時代から今日まで、鼻濁音 [ɲ] の後に前舌母音 [i, e, ɛ] が来る時には ng- は ngh- と書くという正書法上の習慣があることと何らかの関連がないだろうか。少くとも MV では音価に全く差はないが、西欧人には、前舌母音の前の [ɲ] 音は有氣的に、或いはより閉鎖音的に聞こえたのかも知れない。その結果が ngk- 乃至 ngh- 表記となって現われたのかも知れない。

(86)一漢字「万」の MC 音は wan [uan] である。MC 声母 [w-] は、本表では v- で表記されることについては前記(15)で述べた。全体としてはほぼ MC 音に近い音が反映されていると見做される。

一〈万〉の意の MV は漢字「万」の SV 音をそのまま用いて van [van] と言い、de Rhodes の辞書にも vạn または uạn として登録されている。しかし MV には、漢字「万」の借用・俗化音である muôn [muǎn] なる語も存在し、数詞の〈万〉としては用いられないが、一定の慣用句、

例えば〈万歳〉とか〈万事〉とか〈万一〉のような句の中で現在でも用いられている。de Rhodes の辞書でも後者は既に慣用句の中<sup>24</sup>でしか用いられていないようである。本項には、この俗化した〈万〉の方が登録されたのであろう。

(87)―漢字「十万」の表記については前記(77)と(86)を参照。

―〈十万〉の意の MV は *muoi van* [*muəj van*] であるが、本表では空白になっている。当時のベトナム人にとって単位として余りに大き過ぎて手に追えなかったのであろうか。

#### 注

- 1) 「草」の右横に「古」を書いてベトナム語の *co* [*kə*] 〈草〉の意味になる。「草」の部分が意味を荷い、「古」の部分が発音を暗示している。
- 2) ベトナム北部の西北地方からゲ・ティン省の山地にかけて広く分布している少数民族ムオン族 (*Mường*) の話す言語で、ベトナム語と唯一の同系語と目されている。ムオン語の方言区画の概要については Maspero 1912, p. 5 を参照。
- 3) ベトナム語はモン・クメル系に属するとする説が最近有力であるが、タイ系要素も濃厚で、しかも後者の一大特徴である声調を有している。ベトナム語の系統論については富田 1977, pp. 180~182 を参照。
- 4) ベトナムの漢字音については、三根谷 1972 と Nguyễn Tài Cần 1979 を参照。
- 5) 『字喃』については富田 1979 を参照。
- 6) de Rhodes 1651 (A)
- 7) 三根谷 1968, p. 15
- 8) de Rhodes 1651 (B)
- 9) Thompson 1965 が最も詳しい。
- 10) 『安南訳語』については陳 1969 と Gaspardone 1953 に詳しい。
- 11) 陳1969 (一) pp. 51~54 に紹介と分析がある。古くは黎貴惇『見聞小録』(1777序) 卷2「体例」(上)にも紹介されている。
- 12) 南篠・高楠 1903, p. 172
- 13) これらのことについては三根谷1972も夙に関心を寄せている。pp. 16~17
- 14) Barrow 1806, pp. 322~326
- 15) Thompson 1965, p. 58
- 16) Barrow の『旅行記』に採録されている中国語、ベトナム語はすべて声調が無視されている。故に、本論考でもベトナム語を引用する場合、すべて声調を無視することにする。中国語に関しても同様である。
- 17) 中国語音韻論の用語、「声母」「韻母」を本論考では用いる。「声母」とは音節頭子音のことであり、「韻母」とはそれを除いた「介母音」「主母音」「音節末子音」を全部包括した概念である。
- 18) 本論考で引用する中国南方方言は、すべて北京大学中国語文学系語言学教研室編『漢語方言字匯』1962による。本論考にしばしば引用される厦門方言、福州方言、潮州方言は閩音系に属し、広州方言は粵音系、梅県方言は客家語に属している。すべて楊子江以南の方言である。
- 19) Karlgren 1966, p. 257
- 20) de Rhodes の『辞典』から引用する場合は声調符号も付けたままにしておく。以下すべて同様。
- 21) Maspero 1912, p. 77
- 22) de Rhodes の辞書には *uàng* と記してある。
- 23) Thompson 1965, p. 98 などを参照。
- 24) 本項〈太陽〉のベトナム語の欄に語構成についての注釈があり、英語で *eye of heaven* 〈天の目〉と記してある。de Rhodes の辞書の時代から今日まで、〈太陽〉は〈天の顔〉であって〈天の目〉ではない。確かに〈顔〉と

〈目〉はベトナム語では同音で僅かに声調のみ異なり外国人にはよく誤られる音ではある。これも誤解だとして片付けることは容易である。しかしベトナム語においては、両語は同語源から派生したものである可能性も強く、もしかしたら〈天の目〉の方が正しい構成であったかも知れない。その証拠にインドネシア語の〈太陽〉mata hari (〈日の目〉) など東南アジアには〈太陽〉を〈日の目〉とか〈天の目〉という構成で呼ぶ言語が多いのである。また、モン・クメル系の言語の中には今でも〈顔〉のことを〈目と鼻〉もしくは〈鼻と目〉という構成で呼ぶ言語が多いらしく、ベトナム語の〈顔〉mặt ももしかしたら〈鼻目〉mũi mắt が縮約した形かも知れず、もしそうであるならば〈天の顔〉は mũi mắt trời のような複雑な形にならざるを得ず不自然である。それよりか〈天の目〉mắt trời の方が遙かに合理的である。〈天の目〉がいつから〈天の顔〉へ転じたのかは不明であるが、もし本書の注釈を信じれば、18世紀末のベトナム人はまだ〈太陽〉のことを〈天の目〉として扱っていたことになる。

- 25) Karlgren 1966 の再構によると、\*lwər/luəi/lei のようである。p. 272
- 26) Barrow 1806, p. 326
- 27) Karlgren 1966, p. 186
- 28) ibid p. 248
- 29) 肉食用の〈犬〉のベトナム語 cây [kəj] を写した可能性もある。何故なら、この [əj] 韻は、前記(10)〈雲〉moo (MV 音 mây [məj]) でも -oo で表記されており、この例外的な表記が正しいものとすれば上の可能性も十分にある。
- 30) Karlgren 1966, p. 431
- 31) その証拠に、ベトナム・中国の少数民族「苗」(TV 音 miêu [miew]) 族も〈猫〉と同音の meo [mɛw] で呼ばれる。
- 32) Karlgren 1966, p. 358
- 33) ibid. p. 125
- 34) Thompson 1965, p. 58
- 35) Maspero 1912, pp. 69~70
- 36) 意味の点でも中国語「棉花」に対してはベトナム語の bông の方がふさわしい。
- 37) de Rhodes の辞書では boū の表記が見える。p. 54
- 38) ibid. p. 77
- 39) ibid. p. 79
- 40) 陳 1969 (六) p. 83

#### 参 考 文 献

- 『安南訳語の研究』 陳荊和 1969序 もと『史学』39巻3号(二), 4号(二), 40巻1号(三), 41巻1号(四), 2号(五), 3号(六)
- 「ベトナムの言語」 富田健次 1977 『ベトナム』(上: 自然・歴史・文化) 第4章 pp. 171~200
- 「ベトナムの民族俗字『字喃』の構造とその淵源」 富田健次 1979 『東南アジア研究』17巻1号 pp. 85~98
- Dictionarium Annamiticum Lusitanum, et Latinum* Alexandre de Rhodes 1651 (A) Rome
- Catechismus* Alexandre de Rhodes 1651 (B) Rome
- 『越南漢字音の研究』 三根谷徹 東洋文庫論叢 53 1972
- Etudes sur la phonétique historique de la langue annamite, Les initiales H. Maspero BEFEO t・XII 1912
- 『佛領印度支那, 一名佛國日南の新領土』 南條文雄・高楠順次郎述, 澤井常四郎編 1903
- Grammata Serica—Script and Phonetics in Chinese and Sino-Japanese* B. Karlgren 1940 リプリント本
- 『中日漢字形声論』 高本漢著 1966 Taipei
- 『漢語方音字匯』 北京大学中国語言文学系語言学教研室編 1962 北京

- 『印度支那と日本との関係』 金永鍵 1943
- 「漢字からローマ字へーベトナムの文字」 三根谷徹 『月刊・百科』 70 pp.13~28 1968
- Le lexique annamite des Ming E. Gaspardone *Journal Asiatique* CCXLI fasc.3 1953
- Nguồn gốc và quá trình hình thành cách đọc Hán Việt* Nguyễn Tài Căn 1979 Hà Nội
- A Vietnamese Grammar* L. C. Thompson 1965 Seattle
- A Voyage to Cochinchina, in the years 1792 and 1793* J. Barrow 1806 (1975 Oxford in Asia Historical Reprints)